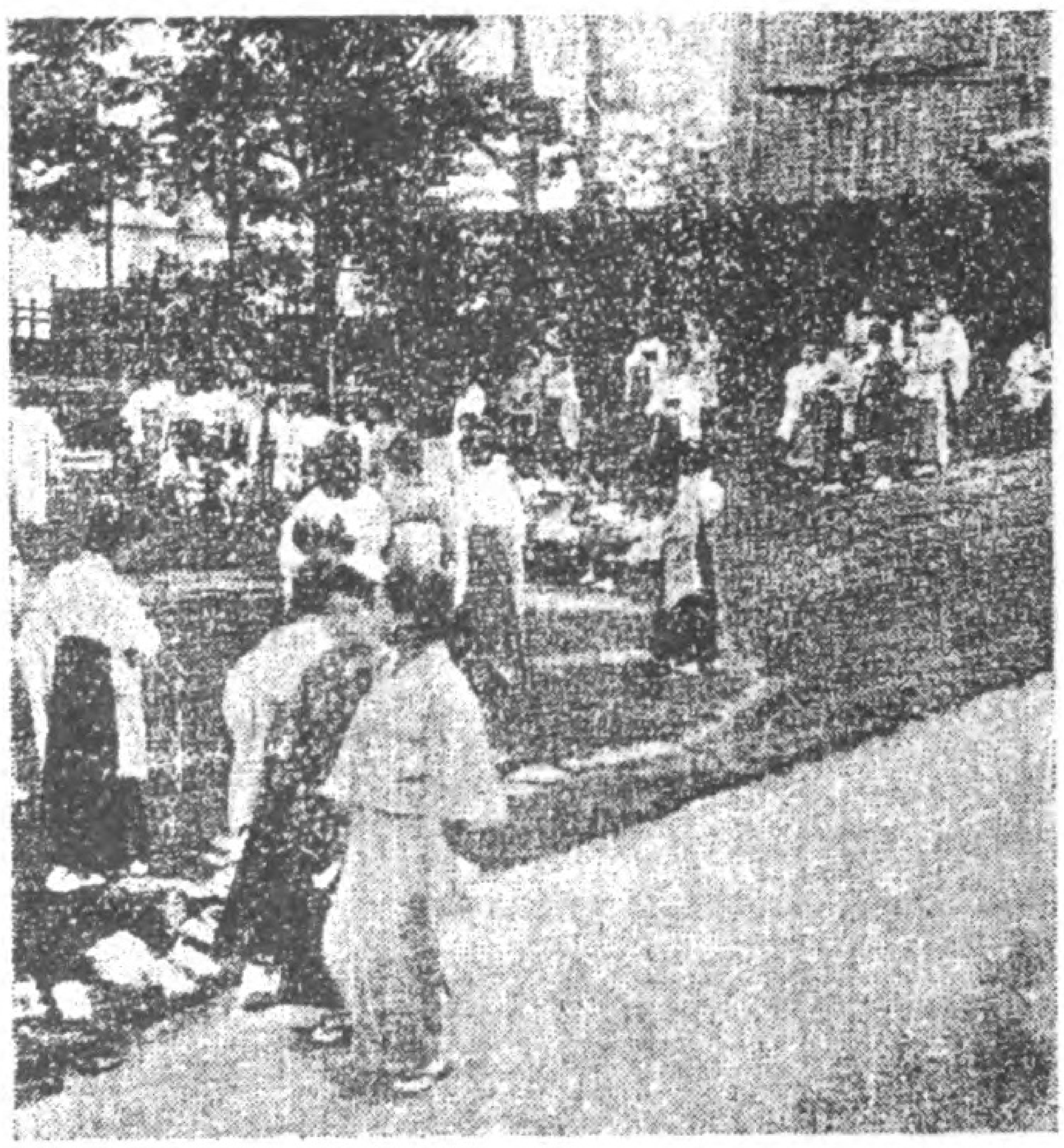
女子青年界第十四巻第八號（毎月一回一日發行）
大正六年九月一日發行　大正六年八月二十八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界



第十四巻
九月號

和本

基督教とは何ぞや ■石坂龜治著 .05-.02
基督の事實 ■シムプソン著 .40-.04
讃美歌歴史 ■海老澤亮著 1.00-.08
ナザレの人 ■柏井園譯 1.00-.08
教師及教授法 ■パークレー著 .20-.04
宗教々育指針 ■ファウスト博士著 .45-.08
人格不能論 ■田中達著 .30-.06
日々の力 ■松本正著 .25-1.00-.08
ヘレンケラー孃吾身の物語 .50-.08
耶蘇の人格 ■フォスディック著 .60-.06
靈交錄 ■フォスディック著 .80-.06
朱と紫 ■富永德麿著 .25-.04
神の我 ■エインズレー著 .15-.02
はなしの園 ■古谷新太郎著 .25-.04
苦痛の秘義 ■ブルークス著 .75-.08
信仰の勸め ■武本喜代藏著 .10-.02
ベテレヘムの厩 ■宮川了山著 .25-.04
人を導く人 ■ゴルドン著 .90-.08

文具

Bible and Hymns (和洋聖書及讃美歌)
Sunday school Supplies (和洋日曜學校教材一式)
Stationaries
- Writig Pads (書翰紙)
- Envelopes (封筒)
- Note Books (手帳)
- Fountain Pens (萬年筆)
- Paper Fastener (紙綴器)
- Embossers (文字浮出器)

洋書

Alexander's Hymns No. 3. .... .58-.06
Alexander's Gospel Songs .... .58-.06
Christ in Everyday Life...Ed. 2. Bosworth 1.35-.08
Christian Standards in Life...J. L. Murray & F. M. Harris 1.35-.08
English Grammar Simplified...J. C. Fernald 1.65-.08
Good Health...F. G. Jewett .... .92-.08
Illustrative Teachings of Jesus...Geo. H. Young 2.20-.08
Life and Teachings of Jesus...Ch. F. Kent 2.90-.08
Manhood of the Master...H. E. Fosdick 1.35-.08
Meaning of Prayer...H. E. Fosdick 1.35-.08
Milton, The Poetical Works of John .... .85-.08
Mrs. Browing's Complete Poetical Works .... .85-.06
Music and Other Poems...H. Van Dyke 2.20-.08
New Educational Music Course... Intermediate Song Reader...J. M. McLaughlin .... .74-.06
New Testament of Our Lord & Saviour Jesus Christ with Notes .... .88-.06
Outlines of Composition & Rhetoric 2.30-.08
Patience of God...E. A. Burroughs .45-.06
Paul in Everyday Life...J. D. Adam 1.35-.08
Pupil and the Teacher...L. A. Weigle 1.10-.08
Schoolyard Athletics...J. E. Sullivan .... .30-.04
Seaside and Wayside, No. 1...J. M. Wright .... .62-.06
Self-Reliance...D. C. Fisher 2.20-.08
Student Standards of Action...H. S. Elliott & E. Cutler 1.35-.08
Study of Child-Nature from the Kindergarten Standpoint.......... E. Harrison 2.30-.08
Care and Feeding of Children...J. L. Morse 1.10-.08
Care of the Sick Room...E. G. Cutler 1.10-.08
Care of the Skin...Chas. J. White 1.10-.08
Care of the Teeth...Chas. A. Brackett 1.10-.08

東京京橋區 銀座四ノ一 教文館 (KYO-BUN-KWAN) 振替一一三五七 電話京橋二五二

前付一

女子青年界目次

大正六年、九月號
第四巻 第八號

前付四

人參を服用する人はホシ人參丸を選べ

ホシ人參丸は人參の研究を以て名ある三宅博士が朝鮮人參の本場なる開城産中の最良品を選擇し是を科學的に精製したるものなり

帝國大學、農科大學、理學博士　三宅驥一先生勸奬

体力精力増進

ホシ人參丸

主効

神經衰弱、ヒステリー、貧血、肺病、老衰、リウマチス、子宮血の道、腦病、神經病、陰萎、營養不良、腎臓、

定價	
廿錢	一圓
五十錢	二圓

東京京橋南傳馬町三丁目
星製藥株式會社
電京一七八五、振東二〇五二二

▷各地藥店及特約店にあり◁

前付七

第十四巻 九月號

女子青年界

大正六年九月一日發行

會説

「ニコ〳〵遊び」

河井道子

近頃讀書界に歡迎されますパレアナは「ニコ〳〵遊び」と申す遊戯を其本の骨子としてあります、即何事でも之を良い方に解釋する事で、不興中に歡與を見出し、不足の中より滿足を見出す美しい精神を申すのであります。少女パレアナ之をグラッドゲームといつて居ります。此夏に於ける神戸仙臺の兩修養會は來會者一同が此「ニコ〳〵遊戯」を終始一貫して益々其興を盛んならしめた感じが御座います、開會に先ち數週間以前より神戸女學院、宮城女學校の先生及び生徒方は、滿腔の同情と援助とを此計畫に與へられ、委員の願ふ處は十二分に其要求を滿し、尚氣付かざる處に迄隈なく注意を拂はれ用意周到之以上には誰しも希望得ざる迄にして大歡迎を來會者一同に與へられました、かの瀧なす汗を拭ふ暇もなく然も生き〳〵たる顔色に笑を湛へて來會者の爲め接待、案内其他一般の勞を取られし神戸女學院青年

會員の芳姿は彷彿として眼前に漂て居ります、此嬉しき歡待は自然と來會者に反映して炒りつく如き炎暑の中に不平を鳴す者は一人もないのみか、誰を眺めても欽然として元氣勇ましく、一番年若に見えた少女達が初めて兩親の家を離れしにもかゝはらず、家戀病やすねた幽鬱的の澁面は何れの隅に於ても見えませんでした。

開會の辭に星野司會者の「修養會は委員や講師方の物ではありません之を成功せしめるものは來會者各自の努力にあります」言の通り、皆が歩調を揃へて「ニコ〱遊戲」をなした故に萬事成功でありました、然も斷水の止を得ざる期日に遭遇しましたが、之も舍監先生の御配慮と同院の婢僕の親切と、來會者一同の公德心により何の不便利も感ぜずに尙更ニコ〱然として感謝の讚美が一層聲高く處々に上りました。「斷水によりて又一種の修養を味ふのであります」と云はれし姉妹の言葉は眞實であります。

仙臺の方もニコ〱遊びを絶えず一同がして居りました、宮城女學校の原田ことぢ先生は「東北の者はうすのろで挨拶もろくに出來ず心に溢るゝ歡喜も表情し得ざる次第で御座いますが當校一同皆樣を大歡迎して居るので御座います」と挨拶がありました。同先生の如きは學校が三月末に終りしにもかゝはらず、修養會準備の爲め歸省をもされで、態々居殘り、夜具、食器等の借入れから校舍、寄宿舍等の掃除に至る迄一々之を監督し、屢々書面にて委員達と打ち合せ、又仙臺市内の婦人達に本會を紹介されなど約一ケ月を會の爲め喜んで捧げられし其犧牲は我々一同に生きたる敎訓でありました、加之宮城女學校の會員姉妹達は終日人々の世話に忙しくも、誰一人面倒だといふ氣色のなきのみならず、用事あれかしと待ち顏に食事の給仕より、客の接待一々原田先生の指揮の下に立ち働かれし事は忘るゝ事が出來ません。殊に鈴木先生は賄の責任を進んで負ひ下されし爲、委員は非常に助かりました、それで三度三度の食事時間は一分も違へず、正確に頂く事が出來、

食堂で混雜などの影さへ見えませんでしたのは同先生の御配慮によります。尙仙臺神戸兩所に於て來會者中には一人の病者も出なかつたといひますのは非常なる感謝でありませんか、之は食事の責任を持たれた先生方や、又一方には間食を愼まれた姉妹方の協力の結果であります。

講演の大概はまとめて誌上に載せます故此所に申上げる必要もありません、聽衆各々が得られた處は多大なるを信じて居ります、然し講演以外に於て受けし惠も多大で御座いませう、例へば早天祈禱會、夕陽會、親睦會や遠足會其の他三三伍伍校園散步がてらの其折に必ずや有益なる興味深き經驗や發見をなすつた事でせう、彼の靑々たる芝生に一同が端坐して木陰に夕風を浴びつゝ座古愛子女史の奬勵を靜に聽ける光景は忘れ難き印象を我等の胸中に刻みました、「伏屋の曙」「御翼のかげ」と愛讀されし姉妹方は目のあたり其著者の聲を聞き、彼の虛弱き身體に雄大强壯なる靈が活躍して居るを見て、生きたる說敎に接した感がありましたでしよう。或は又仙臺の風凉しき栗の大樹の下に布施女史の奬勵を聞きつゝ「煩らはしき世をしばしのがれて」の讃美を聲靜にうたひし瞬間誰か敬虔の念に滿されずに置かれませう我々の記憶は見聞の一部始終を何日も鮮明にしては置けませぬ、乍然或る機に應じて遇然と聯想的に浮び出でそれが我々が目ざす決勝點の行司となる事が往々に御座います、故に高潔なる事、善美なる事を我々の腦裏に貯蓄する事は金錢を貯蓄する以上に大切なる事であります、此貯蓄材料を多く提供する爲めに修養會が開催かれたのであります。

恰度神戸の會と同時に御殿場で共同傳道大會が開催されましたが其會場に「不平あらば富士山を見よ」との辭句が掲げられたさうであります我等若し「不平あらば基督を見よ」といふ格言を心に何日も留めて居らば何事に對しても「グラードゲーム」を樂しみ得ると信じます、其經驗の一端を我々は兩修養會に於て致したのであります、諸姉は唯々開會中のみな

らず常に何處如何なる場合にても此遊戲を試みて他にも敎へられん事を希望いたします。

扨て本年の修養會は始めて二ヶ所に開きましたので其成効を案じて居りましたが、實に何れも祝福をうけ、神戸は講師、委員等も入れて出席者は三百十四人、校數三十五。青年會市部二。

仙臺は出席者百九十一人、校數三十三。市部二、以上の如き數字を見たことは、豫想外であり、內容に於ても其比例にて進步した靈的會合なりしと信じて居ります。各支部が充分に献身的なる働を示めし、代表者も多く派遣され、其報告の如き益々充實した活動の徵があらはれしは御互に賀すべき事でした。又本部委員中では志立たき子夫人は、神戸に全部、仙臺に四日間。野村美智子夫人は、仙臺に二日間出席され、後進者を奬勵になりました、廣岡淺子夫人は御老體に拘はらず、青年を凌ぐ勢で、御殿場から態々出席下され、早朝來仙で二回の講話後其日の夜行で東京に歸へられました。かく皆協同的に、會の成功を援けられし事を厚く御禮申上ます。諸姉の感想や同情の御手紙が澤山に御座いますから、其を御披露すれば尙更我が女子青年會が如何ばかり、愛護されてゐるかゞ良く分りましよう。爰に略儀ながら御禮を申て置く事があります。其は兩會に於て講演の筆記の責任を負ひ下さいました姉妹方に、御援助を謝さねばなりません、なか〳〵筆記は面倒なもので、時間のかゝるもので御座います、其を欣然として御引受け早速本部へ送り下さいましたので、編輯人が大助で御座います、但紙數の都合で此の月に出ないのや或は削除した點も澤山御座いますから、此點を御寛赦下さいまし。此他に本籍の販賣を世話して下され方、鈴を鳴らす役目、電話の取次、何から何まで若き人々がよくも立働き下され、修養會は最早委員や講師のものでなく諸姉來會者のものであるを認めて限なきの滿足と將來の光明とをみて、以前に勝る數倍の勇氣が與へられました。青年會も愈々基礎が固りました、諸姉は其上に如何なる家を建築せんと欲し給ふや、寒暑風雨に耐へ得る、尙且善美を兼ねたる神の宮となし給ふを願ひ申します。

講演

神戸仙臺に於ける修養會場にての諸先生方の講演は、來會されし姉妹達により其梗概が筆記されましたが講師方の校正を經て居ません、又時日の迫りたると紙數に限りがありますので、全部を此卷に揭載する事の出來ぬを御詫び申上ます

編輯人

相識の幸福

青木澄十郎

十年程以前に、自分には神の道を傳へるには力の缺乏して居る事を思ひ、傳道を止め樣かと考へた、其時に一人の信仰あり、力ある先輩の許に行き、其人の說教や談話には何故に力があるかを質問した處、彼は稍暫く瞑目して後に半ば目を開き恰も獨言の如く「力は危險なるものなり」と云はれた。成程然うである、我は力を求めたが、其力を受る丈の準備が出來て居なかつた、受る事は決して容易ことでない、受ける準備なくして受る事は受けざるよりも恐しいことであると氣付いた。

自由は危險である、自由の前に求むべきものがある、今回此修養會の格言を熟讀するに、エスは自由を與へる爲に申されしものではなく、其語勢は自由と云ふ處にはなくて「かつ眞理を識らん」と云ふ點にある、我等は自由を最初に求むべきではない、先づ眞理を求むべきで、自由は眞理を求め得た結果である。

現代の青年男女の箍が緩んで來て、無闇と婦人の

解放の、青年の自由のと騒ぎ立てる聲が喧しいが、自由が欲いならば、其を受ける丈の準備がなくてはならぬ、然らば其準備とは何を云ふか。日曜學校の生徒が何を問はれても、神樣とかキリストとか返事すれば當ると思ふ樣に、牧師傳道師が口を開けば、直に神、基督と申すかも知れぬが、古を溫ねて新を知るで、我等は基督に歸へるより外に道がない。

神は何物でも我等に惜んで與へられないのではない、父が子に對して其子の爲にならぬことなれば與へぬ、子が受ける丈の準備がなくば與へられない、抑其處で自由を受ける準備に眞理を求めよと申たが、眞理とは何であるか、ピラトが基督に向ひ「眞理とは何ぞや」と問ふた時に返事されなかつた、眞理を目前に見ながら、尙も眞理とは何ぞやと問ふた場合には返事する必要がない、金剛石を見ながら、一體金剛石とは如何物かと尋ねる人に返事する必要がないと同樣である、眞理は其でなく彼である、眞理を概念の觀念のと思のは間違である、基督は約翰傳八ノ卅六に「子も自由を與へなば」とて御自身で說明して居られる處を見ると、眞理とは概念などでなくて人格的のものであることが了解される、故に基督御自身が眞理である、基督を識るこれ眞理を識るのである。識ると云ふても、十年同じ屋根の下に住んだからとて其で識ると云ふ譯には行かぬ、夫婦同志で相識ぬ處から、夫たる者は每日不平を鳴らし、妻は泣きの淚で暮す家も澤山ある。

エス、キリトは貴女方を識ておいでである（約十三）貴女方はエスに呼ばれし事ありや、サムエルが幼少の時に神に呼ばれしと同じ聲を聞きし事ありやエスは貴女方と群衆視してゐられるのでない、各自の名を御存知で其頭髮一線をも御許なくて落ちる事はない、其程迄に我等を御存知である、然るに神の心は淋しい、地上の親にしても子供の一寸した一言が非常に嬉いが又嫌な事をされると淋しくなる、其子でなくて滿たされる事の出來ない空隙が親心にある以上に、神は貴女方でなくては滿たされない淋し

い處がある、放蕩息子を探ねる親心は淋しい、神の心は世界の十七億の人を一々入れて置かれる位に廣大で、其一人でも迷つて居ると淋しく感ぜられる。神が如斯我等を御存知とせば、我等は神を識つて居るか如何かゞ問題です、基督を識らぬ基督者は有るべき筈でない、「毎日基督を識る事」と云ふが我が夭死をした友人の祈願であつた、何事をなすにもエスと相談をして後に着手する人に遭遇た事がある、實に羨望しかつた、如斯き人は幸福な人である、自由な人である、エスを識るならば自由は其結果として湧然として來る、「耶蘇基督の囚人たる我」と云ふたパーロは自由な人であつた、其處で神が我等を識り給ひ我等神を識る、即ち相識に於て自由も幸福も凡てが含蓄れてゐるのである。

弟子生活に就て

（約翰傳八章三十一、三十二）

星野光多

（一）弟子

一 生命の特徴　成長發展（馬可、四の二六―二九）

一 信仰生活は弟子生活（馬太、二八の一八―二〇。同、一三の五二）

弟子の資格　（一）信任　（二）出精　（三）忍耐

（馬太、一一の二八―三〇。路加、九九の二三。腓立比、四の八、九）

課程（羅馬、八の二一、二九、三〇。以弗所、四の一一―一三。彼得得、一の三、四。）

（二）眞理

一 眞理とは何ぞや　一般的眞理乎、宗教的眞理乎、確信となれる眞理乎、然り是也。

確信（Conviction）とは何ぞ、神に關し、基督に關

し、人に關する眞理が具體的に生命となり主義となれる也。確信成立の唯一條件『……我道に居ば……』（約翰、七の一七。同、一五の七、八）

（三）　自　由

自由也。

一自由の種類　そのうち最も貴重なるものは精神的

其含む所　（一）信仰の自由　（二）良心の自由　（三）罪の力及び詛よりの自由　（四）我儘、虚榮心、恐怖心よりの自由　（五）あらゆる善事を樂み行ふの自由（馬太、一三の五二。詩篇、一の二、三）

神の子のみ眞正の自由を與ふべし。

（約翰、八の三六。羅馬、七の二四、二五。同、八の一、二）

一宮殿を參觀せし人の所感

此度の標語となれる「爾曹もし我道に居ば誠に我弟子なり、かつ眞理を識ん眞理は爾曹に自由を得さすべし」と云ふ二行の文字の中には三つの大なる言葉示されたり。弟子、眞理、自由、更に大なる言葉にして其內容の計り知られざる程高く廣く、深きものなり。

元來生命は生長する特長を有す。而して、生長止めば又生命もつきるものなり。生命の最も高尚にして、優れたるものは信仰生活の生命なり。信仰生活は靈的生活、又は弟子生活と呼ぶ事を得。其弟子たる言葉はキリストが己れの弟子に始めて、與へ給ひし語なり。

「是故に爾曹ゆきて萬國の民にバプテスマを施し之を父と子と聖靈の名に入れて、弟子とし且わが凡て爾曹に命ぜし言を守れと彼等に敎へよ。夫我は世の末まで常に爾曹と偕に在なり。」これ弟子等への終りの旨命なりき。又馬太傳十三ノ五二天國につき敎へられたる語は弟子の意なり。此弟子の意は只キリスト世に居ませし時の弟子のみに限るにあらず、即ち信者として、世に住めるものは悉く彼の弟子なり而して、永久に朽ざる、限りなき命にあづかる特權を有するなり。然らば其特權に對し資格なからざるべからず。第一に於ては主を愛し、信じ之に歸因す

るにあり。第二に於ては、日々已れに克ち十字架を負ひてキリストに從ふなり。第三に於ては凡ての妨害に打勝ち耐へ忍びて、終りの勝利を得るやう努力する事なり。

其課程たるや我等如き者には容易に到達し得べきにあらざれども、我等、其發展を望む時に、神の子達の榮たる自由に入る事を許されるなり。

第二に於ける眞理とは何ぞや。弟子として眞理を知らざるべからず、キリストの、宣ひし眞理は化學上の眞理にあらず、學問上の眞理にあらず、又宗教的眞理として解するも廣き知識なからざるべからず確信となれる眞理これ眞の眞理なり。此眞理に二樣あり。罪人が證據物によりて、遂に辯解する能はず我は眞の罪人なりと自覺す是れ一の確信なり。「神は父なり」「キリストは神の一人子にして、我等の救主なり。」「我が父母我を棄てさるとも神は棄て給はず」と云ふが如き之又大なる確信の一なり。其確信によりて、我等は限りなき生命を得。英國倫敦のセントポールの塔上の十字架は誰も忘るゝ處なるも其内部は十字架にかたどられて居るを注意するもの少し。我等も只遠方よりキリストの十字架を仰ぎ見るのみならで、其内部につき進み眞のキリストの道によらざれば何の益なし。

第三に來るべきは自由なり。確信の結果、我等は自由を得べし。「自由を得さすべし。」とのたまひし主の言葉の中にも種々なる意を含まれ居れり。然し其中最も貴重なるものは精神的自由なり。此自由を束縛なすものは罪なり。マシュー、ヘンリーは云へり。人は肉體上に於て奴隷となれる時或は利害關係に就ては裁判に於て爭ふ事をすれども精神上の問題に於てはいかに取扱ふや。或は罪の奴隷となり、或は惡習慣に捕へらるゝが如き事あるとも、冷淡平然として少しも意とせざる事多し。

信仰上の自由に於ては、世に迷信に陷り偶像を拜する者多し。彼等は眞の神を知らざればなり。たとへば、此頃世に流行なす天命と云ふが如きは死の恐

怖より起れるものなり。其結果として死後尚死人と談り得べしとなす。或老牧師其娘を失ひ悲歎にくれ居たりし時、此迷信に陷り娘にまみゆるの喜びを得たりと答ふ、宗敎家の彼にして、此言葉をなす何たる恥辱ぞや主キリストは其復活に由て死を亡し明白に我等の前に永遠の生命を具へ給ひしにあらずや。

我等善事をなさんと務むれども、罪の力の爲之を妨げらるゝ事しばしばなり、我等は自己の我儘を棄て虛榮心を防ぎ、罪及び詛の力より隱せざる可からず。確信我等が心の中に生ずれば流水の低きにつく如く、煙の高く登る如く求めずして善事は意のまゝに行はるべし。神の子たる我等は、樂しみ喜びて、善事をなすべき自由を與へられたり。

キリストは我は道なり、眞なり、生命なりと、のたまひて、修養の奧義を憚からずして我等に示し給へり。我等はかくて、キリストの弟子となり、確信の後自由を得べき特權を與へられたる者なり。

聖書に現はれたる鑛物

東北帝大敎講師　岩崎重三

ユダヤの地理、聖書に現はれたる鑛物を論ずるには先づユダヤの地理より論ぜざるべからず。此地は一の荒蕪せる高原地にして此南地に走れる凹地帶あるを以て特性とす。此はヨルダン及び死海の深谷と稱せられ北はレバーン山より南は紅海に達し其長さ二百哩に達し急傾斜を以て深く陷入す。最北にあるをメロム湖と稱し地中海水面上八呎。此より南に流るること十哩にしてガリラヤ湖に至る。此湖水は既に

地中海水面下にあること六百八十二呎とす。又南に流るゝこと六十五哩にして死海あり。其水面は世界第一の低位にして地中海水面下實に一千二百九十二呎に及び其底は一千二呎に至ると稱せらる。

死海　元來此地は地質學上比較的近世まで海水下にありしものにして第三世紀の末葉海水中にありて一大斷層を生じヨルダン溪谷より西の地方は一帶に陷落せり。此際此斷層に當れるところは深く地中に陷入して以て今日のヨルダン溪谷をなせり。此斷層あるがために此部の西と東とにては大に其地質を異にせり。東部にありてはシナイ山を形成せると同一の花崗岩又は此種の岩石を露出せりと雖も西部にありては全く新期の岩石のみにて下には白堊期に屬せるヌビヤ砂岩あり。之を覆ふて始新統及び解新統に屬せる石灰岩あり。此地方は即ちユダヤの地方にして基督の活動せるところなり。此砂岩は緻密にして水を通せずと雖も上にある石灰岩は多孔質にして水を通ずるが故に全く水を有することなく此砂岩の上に至りて初めて水を瀦滯す、此岩石もし地面に近く來るときは池を生じ然らざるときは深く地中を穿ちて初めて水を得るものとす。此種の池の中で最も有名なるものをベテスダの池とす。此池は約翰傳第五章に現はれ頗る有名なるものなり。元來此池はパレスチナの市中にあり。四方を石にて圍み頗る美麗に構築さる。元來パレスチンが何故に山頂に築直されしやを察するに此山の頂には此の如き水の多く存在せしが其一因なるに相違なし。是れ全く琉球の首里が山頂に龍神とて有名なる水あるによりて築城されたると同一理なり。此ベテスダの池は一の湧水にして時を定めて湧出す。此時は水面動搖す。此を以て或は天使來りて水を動かすと考へ此時に第一に水中に飛び込めるものは其病氣癒ふると考へられたる所なり。今は全く飲用に供せられ入浴を禁せられたりと云ふ。

土瀝青　死海の水其多量の鑛物質を有し其量二十七%に至る。されば一切魚類其内に棲息する事能は

ず。ヨルダン河より流入せる魚類は其底に至りて腐敗せず。化して石油の滓とも稱すべき土瀝青となり時々水面に浮ぶことあり。從つて死海の別名を土瀝青湖と云ふことあり、此ものは砂に混ずるときは化して漆喰となる。此れ即創世記に灰砂の代に石漆を得たりと稱するも、これ土瀝青を意味するものなり。

岩鹽　死海は昔より今の深さにありしものにあらず之は地中海と同高以上にありしこと明かなり。然れども此れは熱帶の烈日のために蒸發されしも之を補充すること少なく次第に水面下降す。從ふて今日の湖水面上六百尺餘の處より食鹽の層を見るなり。而して此水中には食鹽の他に又石膏を混ず。此石膏は食鹽を多く混ずるとき初めて多くのものを溶解し得るなり。故に水減じて食鹽沈澱すれば石膏次で沈澱す。次には食鹽又沈澱す。かくて食鹽と石膏とは互に層をなして相重疊し岩鹽層をなす。創世記第十九章にロトの妻は後を顧みたれば鹽の柱となりぬといふもの是なり。土人は其混合せるまゝ堀り取りて食用とす。若し雨期來り空氣濕潤とならんか食鹽のみは溶け來りて跡に石膏のみを殘す。此時は全く鹽の味なきに至る。土人之を稱して鹽の味を失るものと見做せり。馬太傳第五章第十三節に「爾曹は地の鹽なり鹽もし其味を失はゞ何を以てか故の味に復さん。後は用なし。外に棄てられて人に踐るゝ而已」と云ふもの即是なり。

硫黄　硫黄のことは聖書の二個所に見ゆ。一は彼の有名なるソドムゴモラ二村滅亡の話にして此二村の民惡事をなしたりしかば「エホバ硫黄と火の雨をソドムとゴモラに降らし其邑と低地と其邑の住民及び地に生る處の物を盡く滅したまへり」とあり。傳説によれば此二村の跡は即ち今の死海の地にして二村の落ち込みたるところなりと。然れども地質の研究によれば此死海の生じたるは遠く人類創成の古なる鮮新世にあれば此地が二村の跡なることなき筈なり。又死海沿岸の一部に此二村ありて地震のために

湖水に陷落したるものなりとの說あり。然るに記事によれば只に陷落したるにあらずして火山の噴火之に伴へるものと見ることを得べし。而して今死海の岸に此火山の遺跡なし。此あるは只ガリラヤ湖の東岸より南方なり而して硫黄はシッチム及びゴールに少しく出づ。

石膏　石膏が岩鹽に伴へることを述べたるが其一部は緻密にて彫刻すべく之を雪花、石膏と云ふ、此ものはユダヤにては甚廣く用ゐられ多くは橄欖油を盛るに用ゐらる。聖書に時々蠟石の器に香油を盛ると稱するもの是なり。是全く蠟石とは別物にして明に誤說ありと知るべし。

輸入　以上は主としてユダヤの國中に產したるものなれども主要なる鑛物は一として國中に出づることなし皆外國の輸入を待てり古は多くはヒニキや及びエヂプト人等の手を借りたり、此れ等は古くより聖書に記載さる。

金　金の記載は最古くしてエデンの花園の記事に既に其事あり。創世紀第二章に川の名を記しピソン河の中に金あることを記せり。其後もユダヤには各地より金の輸入されたることを記す。主としてスペイン、オハーシエ、パ等より來れり。其等はマダカスカルなりとの說あれども或は今日のトランスバール又はローデンシヤ等なりしやとの說あり。

銅　銅は盛に使用されたるも一つも自國に出づるものなく。アラビヤ、ペトフア、及びサイプラスより來り後スペーンより多く輸出す。

鐵　人が鐵を使用せるは近世の事なりと說く人あり此れも實は非常の古代より鐵を使用することを知れり。創世記第四章にすればアダムより七代目のメレクの子にドバル、カインなるものあり。此人は「銅と鐵の諸の刃物を鍛ふものなり」と記せり。又アッシリヤの遺跡より鐵を掘出せるものあり。其他聖書中に鐵の記事各所に見ゆ。

若き人々に望む

志立たき子

日本の婦人は世界中で最も體格が惡いやうで御座います、人種のせいと申せば然かも知れませんがアジア人種の中でも最も惡いと云ふのはどう云ふわけで御座いませうか。私はその理由は日本の風俗にある事と思ひます、一は家の中に座る事、二に袖の長い事又帶の長い事、此樣な事が日本婦人の體格を惡くするもとなので御座います、或人はこれは日本の風ですから仕方ありませんと云ふかも知りません、併そんなら體格が惡くなる事は日本の風だと云ふやうな理由になります。是が社會の狀態でありますから急に風俗を變更る筈でもありますまいが、各自の考で注意し少しづゝ改良する事は必要な事と思ひます。

學生に脚氣の多いのは驚くべき事で御座います、是は運動の足りないためでありませう。婦人であるから强壯くならなくても宜しいと云ふ人もありますが、其樣な筈はありません。人樣はよく「あの方は病氣をなさらない、眞個に御丈夫な方」と申されますが病氣をしないと云て必ずしも丈夫なものでは御座いません、習慣であるからと云つて不衞生な生活をして病氣をしないから丈夫だなど思ふのは間違です人は馴れるとどんな事も害になりません、併不衞生な生活をして居りますと後で若し急に良い生活に移つた場合必然惡い結果があらはれるものであります、急によい生活に移らなくても不衞生な生活をして居る人は永續きはいたしません、是を忘れて、昔からの習慣でありますからと云つて直さずに居ります事は誠に心得違ひと思ひます。

昨年米國から渡來された某氏が日本の人々を見て斯ふ云はれました、「日本の人は皆蒼い顔をして居らつしやいますそして私はどうしたものか寒くて〳〵仕方がありません皆さんはよく我慢して居らつしやいますネ」「けれども日本では是に馴て居りますから」と答へましたが「日本人はもつとよい食物を食べ衛生に注意をされたらよくなるでせう」と云はれました。この衛生法について改良する方法はいくらもありますが一々申述る事が出來ません唯各々その生活に於て適當な方法を考へて實行して欲しいと思ひます。又私は試験の前夜夜通で一生懸命勉强する若い方々を眞個に御氣の毒に思ひます、試験の前にあんなに急に勉强すると云ふ事は脳のために大へん悪い事であると思ひますどうぞ皆様はこんな勉强をしてその時は試験が通つても決して長つゞきするものでない事を記憶て戴き度う御座います。

次に智育の方面を申しますと學校で學ます事をよく頭に入れ、よく嚙こなして自分の思想にする事、そしてもつと智識を廣く深くする事が大切であります。御花や御茶を課外にする事も良かも知れませんが。それは體格を害ひ時間を費し他の勉强に妨害なりますからそれを後廻になすつた方がよろしいと思ひます。またもう一つ御願申て置きたい事は英語を學ぶ事、英語さへ讀めませば世界の思潮は今何方に向つて居るか位の見當がつきやすいものです、英語の出來る人は今日の戰爭の事についても今戰爭はどんな具合になつて居るかと地圖を開いて見て居る中に歐洲の地理がよく分るやうになります、皆様は英語を學んで損はありません此頃漢字の代りにローマ字を用ふると云ふ説は餘程盛になつて居るやうですがその是非は私にはよく分りませんが、英語に於ては實際廣い智識を得るにしてもまた常識を養ふにしても必要な事であります、或る紳士は私に斯ふ云はれました。

「(白い國)と書いて居るのはどこの國のことですか」と今時そんな事を聞かれて私は喫驚致しました、

これでは立派な一角の紳士としてお話が出來ない、斯う云ふ事は日本人に應々見る事でありますが、確に字が餘りに六ッケ敷いと云ふ事が原因するので御座いませう、英語々々と云て日本人はどうするかと云はれる方もありますがそれは誠に心の狹い人、苟も智識を普及る事に興味をもつ人は斯う云ふ事を云ふ筈はありません。

德育につきましては聖書に書いてある事を日常生活に應用する事が大切です、併し聖書に書いてあるからと云てとんでもない事をして下すつては困りますが此時代に適當に聖書を應用する事は肝要であります、基督の敎へ給ふ事は何の時代にも當塡る事ですから心配はいりませぬ、假令ば互に相愛するを云ふ事は日本婦人に最も大切な事で御座います、社會の統一上試に困る事は婦人間に愛の足りない事です「喜ぶ者と共に喜び悲しむものと共に悲しむべし」とポーロが申ますが社會には人の困つて居る時に笑つたり人の喜ぶ時に苦笑をしたりする人があります殊に人の過失を寛恕事の出來ないのは誠に遺憾な事であります。日本婦人はもつと寛大な心になつて人の惡い事は惡いとして、其過失にも同情をするやうにならねばなりません、又共同一致はことに靑年會々員たるもの最も修養せねばならぬ事であります。高慢と云ふ事はあまり物を知らない人に有勝な事で是も戒しむべき事で御座いますが、日本婦人の特に缺點とする處は出來るだけ人樣に馬鹿に見られるやうに裝ふ事で御座います、人は馬鹿をよそふと馬鹿になります、日本婦人はよく無學を裝ひます、それは明治の初年に於てあまり婦人は高慢になり過ぎた反動として此頃こんな傾向が顯出れたものかも知りません、何しろ皆樣は有の儘で居ていたゞき度い、それでは禮儀はなくて困るぢやないかと云はれる人もあるかも知れませんが人間はそんなに無作法になれるものではありません、友情は外からでなく內から思想上に於て自ら湧き出づる友情をもつて交つてほしいと思ひます斯して肉體は丈夫に、智識も廣く深く、精神も健全に、友情もあつく共同一致して此の社會の改善につくす事は皆樣日本の若い方に切に望むところで御座います。

自由の理

新渡戸稲造

私は女子青年會には非常に趣味を持つてゐる、女子であるからではない、日本の女子を云ふ者には少し志ある者は同情する、今日の戰爭で歐州は今は大なる迷の中にあるが、獨り日本のみは天下太平、皷を打つてゐる。併し平和な日本に於て前途がどうなるかと考へたら戰爭で騷でゐるよりも重大な事件があろうと思ふ、却つて支那や歐洲の方が望があるかもしれぬ。日本は何の方面に行つてよいか分らない、かく國を憂る志士はこの解決を、祈りによつて神の力を求めねばならぬ。殊に來るべき問題について最も注意すべきは、今日の問題となれる自由である。この自由が日本に流行しだしたのは明治十年頃である、昔の自由と今のそれとは意味が異つてゐる。最初この自由が流行した當時は危險であつた、即ち國體に反對するとか皇室に不敬な事をするとか危險として誤解されたが、決して然う云ふものでない。ミルの「リバテー」を中村敬宇先生が譯されたが其中に「後日の譯者を待つ」と所々に記るされたのを見ても「自由」を如何に解する事が六ヶ敷かつたかが分る、バークが云つてゐる「人には自由はない、ある法則のもとに止むを得ず動いてゐる」と例へば手紙を書くにも母に頼まれて書くのもあるが、全く自分が自由に書いてゐると思ふが「七月の終り又八月の終りには手紙の數が多いとなつてゐるから、矢張り何かの法則のもとに我等は書いてゐる。結婚でもそうである、何も政府から命ぜられたわけではない勝手に時を選んでやつてゐるがやはり何月とかに一番結婚式が多いとすると法則の下にあるら

しい、日本は離婚に於て第一等である百人の結婚に二十五人の離婚である整然と數が定つて出てゐるとすると、何かの法則に支配されてゐる。それで運命論者なるものが世の中にある「私がかうなつたのも運命である、私が親不孝になつたのも運命である」など〻云ふ、處がかく考へれば自由は無い樣であるが、個人に取つては自由があるのである假令へば幼稚園の子供には何時から何時迄は運動とか手工とか何とか先生の方できめてある。かく先生の方から見れば自由はないやうに見えるが、併し子供に取つては自由に遊べるのであると同じやうに我々人間も神の目から見たら整然たる自然の法則のもとに過ごしてゐて、其處に始めて私共は自由があるのである。換言すると我等には選擇の自由がある水を飲む飲まぬの選擇、是を私は自由と云ふ。併し事に當つて左又は右に仕やうかと定めるには自己の力を認識せねばならぬ、「大海を呑む」「大山を抱く」とか云ふのは法螺であつて斯る事は倒底不可能である即ち選擇の出來るものでない、「自由は」自己の力を認識せねばならぬが、その前提としては、如何しても人格を知らねばならぬ、「人格」の（話しても分らない私自分もよく分らない）觀念はキリスト敎の賜物である、ユダヤ人もギリシャ人もローマ人も野蠻人も自由の民も奴隷も男も女も共通的に人と云ふ觀念はなかつた、人と云ふ事を敎へたのはキリストである。神に對しては我々は人である、その意味も信者は分らなかつたが八百年も立つてオガスチンが出て人と云ふ事を說いたが、まだ分らなかつた、ルーテルが出て信仰の自由を說いた、自由を論ずるが爲に四百年此方歐洲では「人格」が明かになつたが、我日本では恥しい事だが未だ分からない、成程支那の學者の說で孟子などは「人は人たり」と力說してゐる又孔子も「人」を說いたが「人格」とは違つてゐる、彼等は男子のみを人と云ひ女子と小人とは人の中に入れてゐない。其故に一夫多妻主義が行はれてゐる、即ち男と女とを別々にしてゐる、これは人格ではない男格と

か女格とか云つた方がよい。キリスト教が人格を教へた。その人格がよく分らない以上に「自由」は分らない、エマーソンは何でも眞面目に聞いた人である如何なる人格も神の特別なる創造であつて皆使命を持つて來たと云ふてゐる。佐藤一齋翁は云つてゐる「平心之を聞けば婦人孺子の語も亦天籟」これはエマーソンと同じである、此人格を重じて始めて自由を重ずるのである。キリスト教の賜物として第一に來るものは人格の觀念で次に選擇の自由で、其から責任と云ふものを知るのである。我々日本人には責任の觀念が薄い、やゝもすると自由は制裁を受けないと云ふが、それは自由ではない、人間の自由は一定の法則に從つて動くのを云ふのである、如何なる自由も必ず一定の法則のもとに行かねばならぬ、孔子が七十になつて「已が欲する處に從つて則を越へず」と云つたが、これが即ち自由である、自由を永續せんと思へば則を越へないのである。一國の法律でも同樣である憲法、民法がなかつたら危險である。社會には法律のみでない習慣の制裁がある。法則は色々の形となつてゐる之に相應じて眞理に從つて行くので自由を得るのである、然らば悉く凡てが皆神の眞理であるかと云ふとそうでない例へば法律なども破つてはならぬが改正する必要のあるのが多くある。「俗情にそむかざるを和と云ふ俗情におちざるを介といふ」俗情は習慣である我々はわざ〱習慣にそむく必要はない餘りやかましく角立てずに調子をつけて行く是が卽ち和である、それなら何處迄も是でやつて行くかと云ふと然うでない、「酒をのみに行かう」と誘はれた時「否」と決然云はねばならぬこれが介であるかく打破すべき事は破すのである是が自由であるこれを得るには眞理を知ることである即ち神と人と靈交に依り始めて自由を得るのである「これが神の聲かと」知つたら自由に行動してしかも則を越えない、眞の自由はキリスト教以外にはないのである。

問題の問題

宮川經輝

第一に考へたい事は如何したら私共が自由の境遇に入り得るか、それには眞理を知るより外にない、そこで眞理とは何ぞやとの問題が起つて來る、標語にある眞理はヨハネ傳記者の好んで云つた言葉で、是は哲學上の所謂眞理ではない、又倫理上のでも科學上の眞理でもなくヨハネ傳記者の眞理である、ヨハネ傳記者が此處に眞理と書いたのはキリスト御自身を意味してるのに相違ない、ヨハネ傳、八章の三十一節(爾曹もし我道に居ば誠に我弟子なり)を見るとキリストの言を眞に守ればよいのである、更に進んで三十六節(是故に子もし爾曹に自由を賜なば爾曹誠に自由を得べし)とある、此處に子とあるは取りも直さず基督御自身である、基督が皆樣に自由を與へ給ふのでこれが眞の自由である、更にヨハネ傳十四章六節を見ると我は途なり眞理なり生命なりと仰せられて居る、我は眞理なりと云ふ事よりして基督自らが眞理である事は論ずる餘地がない、眞理が汝に自由を得さすべしとは生きた眞理である、哲學、道德、科學上の眞理は多く死んだ眞理である、死んだ物を生きた人間に活用することは出來ない、然るに基督は生きた眞理であるから之れより眞の眞理はない、眞理を知る爲めには基督に行くのが最も早道である。

其處で問題の問題とは基督を知る事である。如何なる哲理、道德、科學上の事を基督が如何に敎へたかを知るのではなく、基督御自身を知るのである、其處で知ると云ふ事が私の話の最も大切な點である皆樣は基督を知れりや？知るにも深淺高低廣狹があ

る、基督はと云へば千九百十七年の昔ベッレヘムに馬小屋の中で生れ給ひ、十二迄は父母の許に居、十三の時父を失ひ後十四年間は大工として起ち三十から三年間世の爲めに盡し十字架に掛けられた、と云ふ、之は極めて淺い知り樣である、私が基督を知り始めてから四十三年に成るが實に大海の數滴位しか基督を知つて居ない、如何が深く知りたい高く廣く知りたいと思ひ能ふ限り基督の傳記と云ふ傳記を讀んだがそれで知つてる事は極めて少ない、大隈侯の說に依つて百二十五歲迄生きるとして未だ六十五年程有るが故に大に學んで死ぬ迄には耶蘇傳を記したいと思つて居る、皆樣が基督を知らうと思ふなら耶蘇傳の中で、エタホモと云ふ英國シーレーの本がある、本當の人間としての基督が非常によく解かる、最少し深い込み入つたものではホルツマンの耶蘇傳がある、之を三度位繰り返したらよい、今一ツ耶蘇の言葉を知るにはダルマンの耶蘇の辭がある、然し之よりもつと手取早く知らうとするには、馬可傳がい〻、最も簡單で最も短かい、私が之を愛する所以皆樣に紹介する所以は此の中に、耶蘇の兄弟が耶蘇を狂つたと思つて捕へに來た（大工の耶蘇が大演說を爲た故）とか、耶蘇が怒を含んで人々を見廻し給ふた等とある、斯樣な有りの儘の事を他のどの福音書にも見えない、之を讀むと非常な親しみを感じ耶蘇の友に成れ相な氣になる、それから又この書中に多くの人を耶蘇の御前に連れ行きしに耶蘇之を癒す能はざりき、とある、之が大變面白い、斯く味ひ讀むうちに盛裝爲ぬ白粉を付けぬ耶蘇が表れる馬太傳五六七の三章を十遍十二遍と讀むと眞に耶蘇基督が御說きになつた千古萬古變らざる耶蘇が表る、次には路加傳の三大比喩、十章廿五——三十七のサマリヤの例話、十五章の放蕩息子、十六章の富者とラザロの譬話、等は此の傳のみにあるので、之を眞に味へば、隣人に對する愛、親子の愛、天父の愛等がわかる。次には、ヨハネ傳の十五章十六章十四章と讀んで見ると、馬可傳の耶蘇は畧繪の耶蘇路加傳の耶

蘇は錦繪、ヨハネ傳の耶蘇は佛書の耶蘇（わかりにくい深玄幽遠なる耶蘇）である、斯く聖書を讀んで耶蘇が如何なる人であるかを知る。

次に耶蘇基督を思案の的とす。

巡禮紀行でパレスティナの狀を見、ガリラヤのナザレを腦中に描くと、ナザレ村の井戸が耶蘇のであり夏のガリラヤのナザレ附近は百花爛漫として居りエスは其處で花を摘み或は天父に祈られる――等ガリラヤの湖水、ヘルモン山上の御姿等目前に顯はれる時に基督を沈思の題目とする。

殊に休暇に於ては聖書を讀んでは目を閉ぢ巡禮紀行を讀んでは沈思する、私はよくエスの夢を見る、曾てエスが驢馬に乘つて橄欖山に行かれる處を夢見た、其驢馬の口を私が持つて居る、私は實にうれしかつた、又或る廣間に於てエスが私の居る下段の方に降りて來給ふのを見て私は驚き倒れんとし傍の女に漸く支へられた、其内にエスの御姿は消えてしまつた、之は只始終エスを思つてるからである、エスを思案の題目とせるが故である。

次にエスを祈禱の主題とす。

ナザレのエスが斯かる事に遇ひ給はゞ如何に爲し給ふや彼の行ふ處を示し給へと天父の御前に跪伏して祈る、何事も基督に從ふて行ふのである、エスはゲツセマネに於て三度も祈られ打ち勝ち給ふた事を思つて我々は五度も祈らねばならぬ。

次に耶蘇を情操の泉と仰ぐ事

耶蘇が痛める足を洗ひ給ひ、幼兒を抱き給ふ處に眞に美はしい暖い情操が表れて居る、私共は愛が足らぬ、暖味が足らぬ、曾て英國にてゴルドン牧師に逢ひし時忙はしきにも拘はらず膝を接して三十分ばかりも話された、又ヲックスフォードのサンデー博士の眞に暖かい接待振りを見て、暖味の如何に有難きかを知り私共の冷やかなるを感じた、口に愛の說敎はするが逢つて其人の冷やかなるに失望する、眞に暖き人に成るには耶蘇が如何に暖味を以て尋ね來た人に接し給ふたかを見ると私共も自ら心の中に暖味が

出て顔にも動作にも表はれて來る、故に曖昧を眞に知らん爲めには耶蘇の愛—己を罪のために殺し給ひし愛、を知るにある。

最後に耶蘇を意志の決定とする。

日本婦人の缺點は意志の薄弱である、一度耶蘇が決定された後は何物も之を動かし得ない、「我心をなすにあらず聖旨の儘になし給へ」と祈つて決定なされた、多くの敵が捕へに來た時スツト立ち出で丶「汝等が捕へに來たナザレの耶蘇は我なり」と仰せられた、之を聞いて兵士等は大に驚き後退りした、耶蘇の大決斷力があれば私共は水火も辭せざる意志の力を有ち「我もし地より擧げられなば萬民を引いて我に就せん」と云ひ給ひし事も實現されるであらう。基督が意志の決定として私共の中に在るなら、如何しても罪や束縛に打ち勝ち得ぬ時も耶蘇の大偉力に依つて今迄の罪束縛は何處へか消え去る斯くて私共の人格が高く上げられ、心理狀態が變つて來るであらう、學校や自分等のする反省法の如く何遍自分の罪過失を算へたとて段々低い〳〵處に沈み行くばかりで到底上にあげられ自由の位地に達することは出來ない、それより私共はナザレの耶蘇と云ふ神の子の高い理想の人格を何時も眺めて居つたならば不平はなくなり罪は流れ去るであらう。

斯く基督を種々の方面より學べば罪も汚れも無くなり、唯エスを生ける眞理として私共に下し給ふた神に感謝するのみとなる、たゞに夏季學校の私のみでなく生ける限り毎日聖書を繙き生ける基督を知る樣努めねばならぬ、故に問題の問題の解決は即ち基督を知ると云ふ事になる。



修養の印象

修養會にのぞみて

某女史

すぎ去つた一週間僅か七日間で御座いますけれど夏期修養會に出席した一週間は誠に意味のあつた日々で御座いました。

『今年の修養會は神戸に』との言を耳にした時から待ち望で居りました其時を迎へて、本部の先生方や會員の姉妹方を御迎へ致しました時私達はどんなに嬉しかつたでせう殊に後に三百三名の姉妹方が出席されたと承つた時は感謝の外ありませんでした。

種々の有益な集りが講演會、祈禱會、夕陽會、聖書研究と澤山催されました面白い親睦會もありました暑さにもまけず遠足にもまゐりました。講演會や聖書研究の時の名高い先生方の御熱心なお話は眠る心を覺まして神に導くもので御座いました早天祈禱會は靜かな心も淸めらるる如く思はるゝ集りで夕陽會はしんみりとした心地のよい集りで御座いました。

かく澤山の集會の中で私の最も好きだつたのは日曜日の夕の讃美禮拜で御座いました、夕日は西に沈みかけて居る時緑の芝を褥に坐して神によりて結ばれた友だちが心を一にして心から靜かに神を讃美し祈る時にほんとに神に近づく事が出來ました、夕ばえの空も緑の木や草も靑い空も皆自然の美を語つて居りました。

あれやこれやと思ひ出しますと樂しい事や嬉しい事で心におこるのは只感謝の念より外ありません只殘

念なのは私達は始めての修養會で經驗もなくいろ〳〵したいと望みつゝ思ふ樣に働く事が出來ませんでしたそれにもかゝはらず皆樣からお禮の御言葉を澤山いたゞきまして恐れ入るばかりで御座います。再び此地で開かれる時が來たならば其時には充分おつくししたいと皆々望んで居ります

終りに次の年に御目にかゝりますまで諸姉の心身の健かならん事を祈り上げます

森の仙臺より

内田茂子

私は仙臺の修養會に參りまして一週間でほんとに修養が出來た樣に思はれます、第一思想を廣くされた事を深く感じます、その他希望を増し青年會に對しての智識も増しました、三日頃から河井先生が神戸の方から御出になりました時は恰度御留守の御母樣が家にお歸りになつた樣に皆喜びました。青年會の皆樣の御活潑な御活動振を目擊し又一段と進歩した米國の青年會の樣など伺つて私共も一層元氣を出して働かなければならないと存じました、役員會議の時河井先生の仰いましたのに「私共學生は學問の傍會の事業に關つて居るのですから勉强の方の大變に忙しい時は會の仕事をおろそかにする樣な事がないとも限りません、今の働は人の爲の樣にみえますがそれが將來たしかに自分の爲になるのです」と。私はもつと會の爲人のためにつくす時間を多く割き度いと思ひます、そしてもつと〳〵日本の青年會の發展を計り度うございます。家庭學校長、留岡先生の御話に感化院の子供がどの位自我をなくして人の爲をはかるかといふ事を、其行に表れた處で調査て其精神上の進歩をみると仰いましたが、感化院の子供ばかりでなく私共も全く己をなくする事は六ケ敷しうございます、私はすべての場合に於てどの位自分

をなくする事が出來るか試して見たいと思ひます。藝術家が其仕事に從事して居る時は己を忘れて其爲に全力を注ぎます、又一つの傑作を出さうとする時はすべての物を犧牲にして其爲に命をさゝげる位にして工夫をこらします、私共が神樣に仕へるのに此位熱心であり度うございます、そして此生涯を藝術家の傑作物の樣に最美麗な完全のものとなし遂げる爲に力を盡し度いと存じます。森の仙臺とも言はれる位木の多い仙臺で暮ゆく夏の夕べ校庭の敷きつめた樣なクローバーの上に圓く座し綠の生ひ茂つた樹木の下に心を合せて神の前に祈りましたあの夕陽會はほんとのよい氣持でした。それから最後の晩あのテニスコートに出まして、赤く燃えて居る火の周圍に集り、高く澄んだ夕空の下に、共に神を讃美し祈禱して互に別れましたあの夜の光景は思ひ出す毎にあの時集つた皆樣を忍びます。

終日有益に

林歌子

滾々と盡きざる神の惠を受ける修養會に去る土曜日には參上終日有益に樂しき時を與へられ感謝致候引續く仙臺の修養會何卒御健康の程御祈申上候

有意味の生

大阪　中路ちか

今回神戸修養會にての三日間は私に取つて非常な有益な時日でした、すべての事を大なる趣味を以つて拜見致しました、かの最も大切なる時期に際して居る青年女子をして全く神の裡に生かして尊き生を體

得せしむる事は如何に大切なる事でせう、尚私は官立學校の青年女子にも斯の如き有意義なる生を得せしめ度いと切に望み祈つて居ります、神様が益々先生方を聖め此尊き御事業のために永久に御用ひなさる様衷心より御祈申上げます、神戸に於ける女子青年修養會の成功を感謝しますと同時に仙臺に於ける同會の上にもいや深き神の恵の下らん事を謹みて祈上ます。

數時間に得し教訓

須磨　伊東彌生

夏期修養會には是非寄せて頂き度きと存じ候ひしも主人事健康を害し須磨の浦に靜養中の事とて幼い子供をその主人に殘して參る譯にもゆかず此度は駄目と諦め申居候に計らずも恩師新渡戸先生の御來神を聞き主の御名によりて集れる多くの姉妹の會場に於て親しく先生方に御目もじ賜はり候事重ね〳〵の幸福に候、その日の數時間は隨分多くの教訓と感謝とを私に與へられ候、私は最近二年間官界の人々の夫人方の交際を見聞いたし居候へども人格的接觸を見出しかね其點に少ならず餓え居申候、位高ければ威張るもの甚しきは主人の位地高ければ威張るものと云つた風の社會に馴らされて參り候、私には試に有名な立派な御方があゝして御働きの御樣子を拜見いたし本當に基督の御教を御實行に見せられ候心地してうれしく感じ申候、私は今年二月受洗致候信者としての幼兒にて未だ何等の宗教的經驗も持たぬ貧しきものに御座候、何卒神の御用の爲に主の十字架を負ひて進み度何卒今後とも御指導を御願ひ申上度存じ候。

清き印象

神戸　杉　みさほ

当地修養會の一週間は誠に楽しき思出に御座候私の生涯にかゝる清き印象の加へられし事を心から感謝致し居候神様の御恵のいやが上にもこの尊き青年會の事業の上にそゝがれん事を祈り上候。

深い綠の木蔭

東京　間瀬　靜子

私が此修養會に出ましたのは第八回を大津に開いた時と今度の二度だけで御座います今度仙臺に參り第一に感じましたのは大津の時より凡てが備つて居た事と會全體が大變落付いて居た樣に感じた事で御座います最も大津は海岸で御座いますから波の音や光線のため何となく浮々した樣な氣分のあつた樣に思へましたが其と反對に仙臺は深い綠の木蔭や氣持のよい講堂が靜かな落付を與へてくれた樣に思はれました、殊に幹事の方々の細心の御注意や宮城女學校の方々の御心盡しを嬉しく感じました。

神の子たる自覺

靜岡縣　高木　喜美

過日修養會に於きまして、今迄致した事もない樣な有益な又樂しい經驗をする事が出來まして衷誠から感謝して居ります、只一週間で御座いましたが諸先生の有益なる御講演を承りまして私が切に望む處はもつと神の子たる事と自覺し世の光となり度いといふ事で御座います、只今私は未信者の中に居ります

ので度々自分意見と異る事を云はれ、自分の主義と異なる事をされたり致しまして日に幾度となく己の感情にまかせ激昂しやすくなりますが、其度毎に己に勝つ事の出來るは修養會で得ました神の子であるといふ自覺一つで御座います。未だ弱うございますから誠に負ける事の方が多いのですが私は神の子らしき者となる樣出來得る限り努力致して居ります。次に私が靑年會の皆樣に御目にかゝりまして感じました事は皆樣方が何時も元氣よく望に滿ちて入らつしやる事です、私も皆樣の樣にどんな時にも元氣よく望を持て私に接する人に快感を與へる者となり度いと熟々思ひました。それから本部の報告を伺ひましてどうかして九月からもつと本部を御援け致し度いと思ひました。今迄私は餘り本部の事を思つて居りませんでした事は誠に申譯がないと存じ、今度歸校致しましたら皆樣とよく御協議して出來るだけ御援けする樣にし度いと存じました。殊に終りの夜の懇談會は忘れる事が出來ません、いつも無益に送る夏休の一部分をあんなに有益に送る事が出來た事を實に感謝して居ります。

向上の一路

京都　井深八重

仙臺修養會中は貴き時間を御さき下され御深切なる御訓誡に預りし御厚恩の程幾重にも御禮申上候、本年の修養會程神の御恵を感じ申候事は無之やう覺申候、願は之が只感じ候のみならで實際に應じ用され眞に會のために働かせ得る樣祈り且努め居候、開會中受けし恵を少しにても御分け致度夏休中友人等への手紙には皆修養會の模樣及び感じを傳へ居り候、本年の修養會には個人として誠に卑き我を悟り申候事、恥よりは感謝にて今より男しく此方面の修養に努め居候來學期より尚支部も神の御力により元氣に

向上の一路に進み度願ひ居候何卒先生方の御勵を賜り度御願申上候。

池の溜水

神戸　米澤尚美

宮城に於ける修養會は如何でしたか、毎日暑さと水攻には大に困つて居ります、併し私はあの修養會にてのグラトゲームを常に思ひ出して感謝して居ります神戸市民がこの普通の水をあへぎ慕ふ如くに生ける水を慕ふ樣になつて欲いと思ひます、生ける水は有餘つて居ります、この修養會により私の眠れる心の戸が打開かれ幾分なりとも言葉を入れ又神の光を見る事を得しをうれしく存じます私は實に信仰うすく又是迄眠つて居りました事を深く〳〵感じました毎日〳〵過日の修養會を思ひ起して居ります、池の水も何の動もなく年中沈滯して居ります時には其中には多くの害虫も發生すると同樣に私共も活動をしなければ池同樣です故に出來るだけ活動いたしたいと存じます此度受けし惠を少しでも他人に分けて差上げたく存じます弱き私でも祈を以てゞも青年會事業を心より御助が出來れば實に嬉しいと存じます。

松島の半日

富澤美穗子

「凉しいのねえ。大丈夫かしら？　明日のお天氣は」

前日から賑かな食堂の會話の話題はともすれば松島行の天候にとぶのであつた。その心が屆いたかその日は（七月廿八日）暑からず寒からずお誂向の遠足日和、十二時半といふに一行は今日許は砂深い、歩き惜い道の小言も言ず仙臺ステーションへと向つた。

誰も彼も嬉しさうな顔。「へえ？お壽司とたがも（玉子）？私タガモなんか頂かなかつたわ。」傍のお下げ髪の方が頓狂な聲を出すやがては御命令の下に大供も中供も機械的に二列に並んで進行する。どこやらの觀光團宜しくといふ體である乘つたり降ろされたり、「一體何うすればいゝの、と小さい人は泣きさうな顔をする。それでもヤット一時少し前に一同は玩具の樣な汽車の中に落ち附いた、呑氣ねえ。いくら田舎だつて」と誰かゞ時計を見乍らいふ。「驛長がこの團體を忘れたのですつて。」「オヤ／＼情なく。存在を認められなかつたといふ譯？」どれが誰の聲だかわからない、ガヤ／＼の中に「もう少しで河井先生の御母樣を忘れる所だつたの。」と賑かな誰かのお聲も交る。汽車はヤッと動き出した。「早く船にのり度いのに。」と足をバタ／＼さしてる腕白さんもあつた。窓からはたえず涼しい風がは入る。「これじや仙臺修養會の……」と片角から始まるとすぐその喜の顔が室中に擴がる。この僞らざる喜の叫はやがて地の果て迄もひゞき渡るのであらう。

「親子どんぶり」の奇拔な輪唱が何時終るともなく續いてゐる時汽車がガタつと止る。「オヤもう？」と騷ぎやは物足りない面持。船迄はすぐであつた。何といふ船か知らず夢中に押し込められる。「私は一等室サヨナラ」「景色は上の方が一しほよ。」と思ひ思ひに座を占める。今日といふ今日これらの人々は世の中の誰よりも一番ハッピーである樣に見えた。やがてチヤラン／＼の鈴と共に船は岸を離れる。」風と波とに送られて……アラ？」「だめよ。そんな忘れつぽい事ぢややり直し」一所に、「風と波とに送られて、夜も涼しき波の上……」「ハイそれから？先生」「忘れたわ……だつて十年も前に教はつた歌なのですもの。」とんだ言ひ譯をしてゐる。歌も一しきり止むと折柄の繪葉書賣から求めて都の友に一葉と、少し靜になる。「もし／＼葉書は後でも書けますですね。景色を御覺なさい」とミス、マグドナルドが窓から御忠告になる。景色を賞讚してゐた二三は得意にそり反り、

「松島や、松島や」と首をひねつてゐた連中は小さくなる。眞夏とも覺えぬ涼しい風は、送り迎へる島々の松の翠を分けて、蒼い靜かな海面を渡つて襟に、袂に快よく訪れて來る。雛島、架橋島、冑島、鞍架島、覺え切れない島の數々「巨者、小者、長者、聳者、穹隆者、凹面而廣者、凸面而狹者、雙相提携者、倏忽轉換。如觀過門之客。」と漢文者流の形容を借用し度い。

上陸して何とかいふ山に登る。さすがに登り道は暑い。早い者は「お先に御免」をしてズン／＼登る。長谷川先生に誰やらの後押がつき少々許り弱つていらした樣だつた。「西行戻りの松」から少し行けば大小の島々が一眸の下に集る快觀、蘇る樣な涼風が吹く。思はぬ草かげに香高い白百合の一輪を見つけて喜ぶ人もあつた。もう一息登る。「此處は青年會戻りの松」と誰かゞ言ふ。足弱い都人達を待ち兼ねて先鋒は下山の途につく、途中とある松の下蔭に二人の落人が骨の拔けた樣な御樣子で座つていらした。

今度は稻田の風の涼しい畔道を一列に歩いてトンネルをくゞつて海の方に出る。振り返れば續く筈の海は切れて影も形もない。「廣くもない島の中、迷子になつた所がねえ」とズン／＼行く。嵐山とは趣のちがふ渡月橋を渡ればこゝは雄島といふ美しい島。肩を並べて立つた碑は多年の海風に曝されて俳人等の風流も大方は跡も微な有樣。行き止た所に東屋がある。一と休と腰を下して思ふ樣涼風を味ふ。「あー、いい氣持」と思ふとあらうれしや仙臺……」と又口から出て來る。松の風、波の音一として私達に調子を合せないものはない。「何時迄もこゝに居たい。」「一日、本を讀んだり、考へたりねえ。」再び渡月橋を渡つたのは四時半過ぎ。とある道端の小高い所に腰を下した他の一組はそろ／＼兵糧を輕くする御相談。さ程でもない者迄つい持物が重くなり出して包を解く。「あなたお寺はまだ?」「え、遠いの?」「否そんなにも。」「私何より喉が乾いて」「お寺には水があつて?。」「さう、うれしい。」こんな會話の後で私達の一組は

立ち上つた。パークホテルの庭を通つて、松の下蔭を辿ると白い敷石の道が一筋お寺に續く。
瑞巖寺は慈覺大師の創建とある。普請中と見えてゴタ〳〵して居た。氣がつくと時はもう六時に二十分前。「折角來たのに見ないのも殘り惜しい」とためらつて居ると「中は暗くてだめだ」と眼鏡のおぢいさんが言つたのでお止め。
杉の木陰又は鈴蘭に似た白い花が點々と星の樣に咲き亂れて居た。誰も名前は知らなかつた。けれど可愛いゝ花よ。私は白い小さい名も知らぬ寂しい花を永久に忘れないであらう。海の傍の名産商で忙しい中を「これは誰に此は誰さん」とお土産を撰ぶ人々「早く早く」と船の方から二三人御使者が立つ。「もつと〳〵欲しいの。」と憾めしさうな顏をし乍らそれでも島流しも心細いと見え皆は船に馳けつける。「大丈夫でせうねえ」とたれかのお心遣ひ、幸に俊寛はなくて、船は靜に動き出した。
海はもう暮れ方である。風も冷たい。「歸るのいや。」「もつと〳〵遊んで居たい。」誰も皆思は同じ、太陽は幸な私達の上に、勢よく漕ぐボートの上に輝きつゝ、稍黑ずんだ松の梢に傾いて行く。やがて最後の光が穩かな波の上に金色の矢を放つた時、私はたゞ何とも言へない心持になつて終つた。と心の底から「やみにこの世の……」の歌が流れ出る。英語で傍でミスグリーンが美しいアルトをお歌ひになつたのでハッと思つた。此の夕暮私はキット外にも此の歌を思つていらした方のある事を信じる。あゝ美しい歌の思出よ。何よりも私を懷かしい思出の國に導くものは歌である。しかもこれは最後の晩、あの神々しい蠟燭の灯のさゆらく中に、人々の胸の奥から無限の思と共にひゞき出した歌ではないか。少くとも私にとつては靜にこの歌を歌ふ時、心に憶ふ時何時、何處でも鮮に松島の半日と一週間の意味深かつたあつまりを描き出す事ができるのである。(八、六日)

讃美歌の聲

富山芽生

こーつ〳〵閑寂な水鷄の鳴聲が聞える。

私はこの家に住むまで水鷄といふものを知らなかつた。水鷄などはどつかの田舍へでも行かねば居ないものゝやうに思つてた。歌や俳句の上に名が出る鳥で、都會に住む今の私達には容易く聞かれる鳥でないと思つてた。それが夜毎に鳴いて呉れるので、私は一人きくと勿體なくてたまらない。

くひななく木の間の月はかたふきて人おともせぬ山陰の庵。といふやうな古歌さへ思ひ出されて、私は古風な昔の藁屋根やほの闇い行燈の火影や蚊遣火の烟がなつかしまれる。

さつきからしきりと鳴いてる。

こーつ〳〵こつ〳〵こつふゝゝ。

水鷄ばかりが私の友であろうか。私は獨言いつた。私もかつて親しい友はあつた。訪れてくれる人もあつた。けれど荊棘多い人生を七年八年十餘年と辿つて行くうち、兎角手足を痛めて遲れ勝な私—愚かな私は、先へ行かるゝ友の姿を見失つた。そしてこの黑い星夜が明けかゝつて、曙の雲が紅にたなびいて世界が再び活潑な働きを始めても、あはれな私はたゞ一人一室にとぢ籠つて、じめ〳〵した朝をむかへねばならない。衰へを歡迎せねばならないのだ。

× × × × ×

私がまだ學生で橫濱の山手にある或學校に居た頃肋膜炎におかされて同じ山手の某病院に三週間ばかし入院した事があつた。病氣がやゝ快癒つて苦痛がうすらぐと、徒然を感じることがひどくなつた。あの頃私の色々な友達は忙がしい時を割いて毎日私を見舞つてくれた。そして枕邊でその日の可笑しい出來事や、學課の進程を話してくれる。やがて二人三人が美しい聲で讃美歌を合唱してくれる。

私はその樂しい友が見える午後が待遠しくて、少し歩けるやうになると、看婦婦に賴んで椅子を廊下の暖い所に出して貰つて、ぢつと向ふの櫻並木を眺めて……今日は誰樣が來て下さるだろう……と千秋のおもひで待つてゐるとひよいと、その並木にぽつちりと人形のやうな人が現はれる。

「あゝおくみさんとおふじさんだ……早く〳〵私こゝにゐるんですよ。」といふやうに私は脊のびしながら、喜ばしさに輝いた目をみはつて、だん〳〵大きくなつて一端町の家かげに隠れすぐ又病院の門前に浮ぶ友を、一刻も猶豫が出來ず小跳して待ちわびた

× × × × ×

「おゝおふじさん、おくみさん、靜江さん——さん——さん。」

私の衰へた目の底にも十幾年昔の山手の景色が鮮やかに浮びます。

不覺にも涙が出ます。

あゝお懐しい美しい合唱がしみるやうに今も響きます。

こーつ〳〵こつ〳〵こつろろろ

水鷄よ、お前のように戸が敲けるなら私は、「あはれな者をお訪ね下さいませんか。」といつて主にある姉妹のお門をノックして廻ろうか？

いや〳〵お前や私のはかなく叩く音は、夏の夜の寂寞を破るばかりであらう。

こーつ〳〵こつ〳〵こつろろろ。

おゝ水鷄よ、誰か來て？ それ御覧！ 私の魂が叩く音をお前に合せてやるから……さあ、朝まで叩きあかしておくれよ……。

私は老人でも子供でも娘さんでもよい。信念の深い友が二三人で、調子や節はそううまくなくても構はない。小鳥が囀づり出すやうな自然な御心から、故意らしくないお聲で靜かに、一つ二つのさんび歌を聞かして下さつたら、名ある專門家の音樂を聞よりも 私は嬉しくて、私の凋れてる衰へかけてる魂は、どんなに振ひ立つでせう濕うでせう。それは丁度哀れな行路病者が末期の水を惠まれたやうな、有難さに口唇がわなゝくことでせう。

をりにふれてよめる歌ども

海上龍子

人はいざいかにいふとも我心
　神にまかせてかへり見はせじ

たまちはふ神の御前のますかゞみ
　祈る心もくもりあらすな

一筋にすゝみ行かまし天地の
　神の敎へし道の正道

心だに我をあさむくうたて世に
　頼みがたきを何かこつらむ

とかむべき人もなき身をかへり見て
　世にあらはれむ恥な殘しそ

山川の岩にせかれてゆく水の
　只一筋に通らざらめや

おこたりをかへり見ずしてなす業の
　おくれがちなる身をなげくかな

夢の世を夢と知りつゝさめがてに
　たどる現もうつゝなりやは

夕立

稻妻は小簾のすき間にきらめきて
　軒端にかゝる夕立のあめ

夏月

中島の松かげながら梢もる
　月もうつれる庭の池水

河夏月

たぎちゆく水のしぶきに霧立ちて
　月かげくもる天の中川

夏期と休養

越後　上野俊子

大火以來受けし祝福の數々を思ひ、心に溢るゝ感謝と喜悦とを配け與へんと學校の濟み次第に歸省致しました。老た父と弟のみなる我家に着きし時は、話相手の母もなく、家を整理する人もなきかと一時は淋しい樣に感じたが其は束の間の氣分にしか過ぎません。此休みには家の事を致し父を慰め弟と語り亡母の代に又或時はおさんどんの役目、元氣よくなるため主婦兼友人の立場に置かれたものと氣がついた時云ひ知れぬ喜びが湧出しました。仕事に變化ある事は何よりの休養と存じます、避暑や溫泉と探りて御靜養遊ばす方のみ多き時節柄、主は私に父の側で此馴れた地に何よりの靜養の時を與へ給ふ事有難く、二十九日の朝も四時前に川畔に立つて朝日の昇る迄祈りました。茂き露にたわむ草と共にひれ伏して、かの聖き生活を送られた「わづらはしき世の」の作者なるブラウン夫人の信仰生活を慕はしく存じました。田舍の生活は蚊が居りますので夜早く休む、朝早く起きる樣に出來て居りますから臺所の仕事をいたしますのにも何の苦痛もなく早く起き出られます、毎朝美しき朝日を心ゆくばかり樂み伏して祈る時が與へられますのは眞に有難い事と存じます、休養の時日も、たへず主の僕の働きを忘ず此夏を御旨のまゝに過させ給へ、と祈りつゝ日曜に教會へ參りました處「夏期と休養」の教をうけて一層元氣に滿されました(ヨハネ四章六節)。「主イエスは數日の御働きに非常に疲れなされ休まんとて井戸の傍に座し給ふた、かく非常の疲の折にも、最も賤しきサマリアの婦人に多大の同情をよせ給ひて此婦人を救ふて限り

なく湧き出ずる神の泉を與へられた。我日も此尊き御精神を心に受けて休養の中にも主のつきざる水を求めて働き、何日も主と共に居りて小さな仕事なりともなしつゝ休養とせん事に努よ、と云ふ事で御座いました、私は少し忙しいと求める友に逢はざりし事もありました、私「歸る前に一日暇の日を申上げませうそして聖書をよみませう」友「有難う御座いますどうぞ日を御きかせ下さい」など云ふて其まゝ逢で出立した私の罪思ふだに恐ろしくなります。身は倒れんばかりに御勞れの折にもなほ御旨をなし盡ざる愛をそゝぎ給ふ、主イエスに從ふ僕としてあゝ何と不似合だらう「今は其時なりオゝ友よ、汝の傍にある汝の愛する者の爲に愛らしき微笑と奬勵の言葉を撒くために時を待つべからず彼等は今汝と共にありともまた來む年に汝に逢ふ事能はざるやも計り難し實に今こそ其時なれ」「いと小さくいと賤しき者なりとも其日この生活の中に彼の周圍の人々に樂しき天國を示すことを待つべし、優しき言葉、同情ある行爲些小の事に思はるれと其價値は時々刻々この小さき同情の行爲によりて慰められ且つ支へらるゝなり」此糧を心に滿たす樣に祈つて働きませう。

一週間洗濯や色々な雜用に務め、日曜日には早く敎會に行き日曜學校も五日から敎へさせて頂く事にしました、禮拜後は海岸に行つて祈り語り讀みます、實に波の音を聞き廣い〳〵岸邊に立つ時は、餘り嬉しくて親友にでも逢つた樣子して、只獨なるに樂しく飽かず聖書を讀み海を眺めて樂みます、何か用事を與へ下さい、祈ります事、手で會の爲めに出來ます事等を御知らせ下さる樣御願ひ致します。九月號の青年界が只今から待ち遠しくて仕方がありません。



ウヰットリア・コロンナ（つゞき）

林　靜太　譯

三

是れ迄のところで吾人は、ペスカラ不在中のヴヰットリアが、各樣の詩歌を研究するに餘念無く、又イタリーの國語を其上昔の純精いはゆる正格に還さんと努めつゝあつたことを、略想見したのであつた。卓越せる文學の樣式は、彼女が研究の直接目的であつた。而して夫の死を悼むの惆悵の調に、ペトラークの流韻を掬みし清澄な風格を以て述作したのである。當時彼女年齒漸く三十六、イタリー國中最美なる婦人の一人であり、又蓋し最有名なる一人であつた。即ち、彼女は其大喪失の前に、僅か許りの短詩を書いたのみであつたが、彼女が當時の文學と文學社會に與へた感化は實に偉大なるものであつた。彼女の才能、彼女の學殖、彼女の美貌、氣品、而して美德は、凡て世人が熱心に嘆美欽仰するところであつた。サン・シルヴエストロの姉妹達の許を立ち出でゝよりは、ネープルスの西方に擴がれる山脊の最高部に在るモンテ・セッシーの僧庵に入り、此處より兄弟アスカニオは彼女をマリノの城に連れ歸つた。マリノは彼女の爲に生地である、其閑靜な四邊の風物は、甚く彼女の性情に調和した。永遠渝らざる舊山河の靜けさに其心神和らげらるべく、其處の樹蔭に靜座して詩筆を振ひ始めた。

世の憂患に對する同情の爲にしばしが程は、己が身の哀哭の事をも打忘れた。今し彼女が去つたローマの地には、法王と彼女の一族間に戰亂の火花散り始めたのであつた。けれども吾人は玆に其釁隙に就いての事は記さないであらう。が、今や危機切迫、皇帝の下、ルーテル教徒一派の人々は、コロンナ家中の錚々たる人々に助けられて、永遠の都を奪掠するのであつた。而も宗教的熱誠は極めて熾烈にして此等侵入者に充ち滿ち、彼等はローマを灰燼に歸せ

しめ寺院を剿滅し、聖所を褻瀆し、古代の宮殿を潰廢に化せしめずんば已まなかつた。法王は此時聖アンゼロの城に俘囚の身となつた。ヴヰツトリアはコロンナ一族が此公の破壞を演じたことを悲み傷むの餘イツシアの島に逃れ、斯て專ら身を以て病者の看護に任じ、捕虜の爲に贖身金を拂つたり等した。

平和が克復してより彼女は再び詩作を始め、詞藻や詩體やに對する研究を始めた。ブラウニング夫人がボルチユギース、ノンネツツに愛を讃頌して居るが如く、實に愛はヴヰツトリアの題目であつた。彼女は『彼女の太陽が彼女の途に輝きし』過去の幸福を偲び、『其餘生にも其美貌にも何等の愉樂を見出さず』してあつた。夫の生涯が其勇氣に充てる壯盛に折れしことを思ひ出でゝは、彼女は哀憐に悶々の情を感じ、又彼女の夫に會はんとの希望の無駄なりしを想ふては、坐ろ哀情の湧き來るを覺ゆるの外はなかつた。彼女の時人の或る者は、彼女の草した短詩百と三十四篇が、縱令愛に由つて鼓吹されしとするも、而も猶高擧せる想像力の產物であつて、ヴヰツトリアこそ、眞に『詩を作る』ものであるとなした。ヴヰツトリア・コロンナが意識的に何等かの氣分を挑起せしめて居たとは想像し難い、彼女の悲哀は純眞なものであつたから。彼女は其望んで居たかも知れない如うに、靜かに夫の過失に其眼をつぶりて彼を見たのであつた。當時彼女に向つて言ひ寄るすべての結婚の申込をも拒んだ。『愛は消しぬ、』と彼女は一の短詩に書いて居る、『彼がそれに照らしたる炬火をば、彼は一箭を放ちて枝を折りぬ、而して彼を圍まんとする係蹄をば打亡ぼしぬ』(ロスコー夫人の飜譯に據る)と。『詩歌は彼女に取りて神に祈る他の方法に外ならなかつた』("La poésie n'était pour elle gune autre manière de prier Dieu")と彼女のフランス傳記者たる、エム・デユウミエーは言つて居る。

彼女は、多くの尊敬すべき婦人のそれの如く其愛する男子の過怠を惡み、惡行を責むるてふ一の偉大なる力を有つて居た、而して若し吾人にして、如何

にして其愛が彼女の存在と共に成生したかと云ふことを記憶するならば、その愛は竟に彼女の全心靈を占むに至つたことを疑ひ能はぬのである。彼女の詩歌は時人によりて熱心に嘆美された。彼等は彼女を『女神だ』("La Dioa.")と呼んだ。彼女の詩集は其知らざる間に發售された。而して改版又改版、此美貌寂寥悲哀の佳人は貴顯の間に、又教會の高僧達の間に多くの友人を有つた。其頃光彩陸離たる偉人、ベムボー大僧正(譯者曰、著明なるイタリーの文學者にして、其著書はラチン語及イタリー語に於て共に文體上寄與する所大なりと云はる、一四七〇——一五四七)は彼女を評して、その偉大なる女王の如しと言ひ。アリオストは、其「狂暴なるオーランド」(Orland Furioso)の中に基督教並びに古代の女性に比しても、夫の爲靈廟を建てたるかのアーテミシア(譯者曰、紀元前三五二——三五〇カリアの女王)に較べても遜色無しと、彼女を以て凡百の婦人の上に頌揚して居る。彼は、ヴヰットリアが、夫フランセスコの名を地下に埋沒せしむることなくして、高く是れを天に擧ぐることに成功したものと考へたのである。タッソーも亦彼女の稱讃に全書を塡めて居る。其他當時著名のイタリー人士は、皆彼女に知らるゝを以て光榮となした。年又一年歳經ると共に、彼女の悲歎もやゝに薄らぎつ、取つて代はるに宗教は、實に彼女が心靈の上に無上の力となり始めた。時あだかも獨逸に於ては宗教改革の眞中であつた。又羅馬教會にも、かのサヴオナロラの如く、地上に於ける聖ペテロの代表者(羅馬法王)の不法不義に對して攻擊して止まなかつたころの、熱烈なる人士が多かつた。ヴヰットリアの全精神は此新運動に趨つた。彼女は、「神聖なる愛の禮拜堂の」僧派に屬する多くの友人を有して居た。此派の目的は、充分に一致和合を保つて、内部より羅馬教會の改善廓清を企圖しようと云ふのであつた。總ての宗教的人士は此運動に加はつた、而もヴヰットリアは萬綠叢中紅一點、實に其ミユーズの神であつた。祈禱と冥想との

以外の閑暇には筆を執つた、而して其題目は常に最も煩雜にして極めて肝要なる問題――教會の廓清であつた。

英國の一皇族なる大僧正レヂナルド・ポール（一五〇〇――五八）は、恐らく彼女が最大の友人であつた、猶此外にもヴヰットリアが、當代を幸福ならしめんが爲には、彼をこそ法王に選ぶべしと言つたところのコンタリニ（譯者曰、チャールス五世朝に於けるヴエニスの大使にして、ラチスボンの議會の羅馬法王の使節、一四八三――一五四二）の如き、又人は信仰によりてのみ義とせらるべしとの教理を講壇より懺悔室より唱導して、イタリーのルーテルとも號せられしオキノ（一四八七――一五六四）の如きがあつた。けれども此等は僅かにヴヰットリアに鼓吹されたる、眞の改革家の片鱗に過ぎない。其彼等の名や、又其苦難に就いて錄すことは、今吾人に取つて不可能である。數年の後、其頂上に達したる恐るべき宗教改革運動に驚愕したる羅馬教會は、終に異教徒糺問所なるものを設けた。是れよりヴヰットリアが旅行して、或は新教徒を標榜せるレネード・フランス支配下のフエララ市に赴いたことや、或は招かれてヴエロナに往いて滯留したことや、又最後にローとに赴いたこともあるが其事は扨措き其ローマの地に於て彼女が、ミケル・アンゼロの峻嚴なる精神を捉ふるに至つたことに移らうと思ふ。』



葡萄作りの話（續き）

袖山愛子譯

すると其人は近寄つて、彼の手を乙女の額に置きました、乙女は不審げに

『貴君の御手を私の額にお置になつて、どうなるのですか、貴君がほんとうに豫言者ではないのですか？

彼はほゝ笑みながら彼女に向ひ、

『山の麓にある彼處の町に行き、汝の身體を祭司等に見せなさい。

癩病の乙女は心の中に、『私が癒されると信じて居るものだから、彼は私を嘲弄したに違ひない、私が知り度いと思つた事は何んにも知らせて與れないで、』

彼女は尙も進んで行きました、暫くして向ふから來る一人の男に出逢ひました、其人は荒野に狩獵にでも出掛けたらしく馬に乘つて居ました。彼がだん〳〵近付いて來ました時に乙女は彼に向かつて叫びました、『私の傍に近寄つてはいけません、私は汚穢れた者です、どうぞ私にナザレの豫言者は何處に居られるか知らせて下さい！』『何故豫言者を尋ねるのですか？』と男は靜かに彼女に近寄りながら尋ねました。『私は其豫言者が一寸私の額に手を置いて、私の病氣が癒される事を願ふのです。』男は尙々馬を彼女の方へ近付けまして『何の病氣を癒され度いといふのですか、貴君は醫者などいらない樣に見える！』『貴君は私が癩病患者であるのに氣が付きませんか？ 私は山の中の洞屋で癩病患者の兩親から生まれました。』男は尙も今咲き初めた薔薇の花の樣に美しくて、艶かな彼女の傍に近寄りました。『貴女は猶太

中で一番美しい乙女です！」と、彼は呼びました、「あゝ、貴女も私を嘲弄なさいますか！　私の顔は醜くなつて居て、聲は野獸の聲の樣になつて仕舞つたのです」と乙女は申しました、すると其男はぢつと乙女の眼を見詰めて居りましたが、彼女に向つて、「貴女の聲はさゞれ石の上に小波立つ春の小川の流の樣にすき通つて居て、貴女の顔は柔かき繻子の掛布の樣に光滑つやとなめらかです、」といひながら彼はもつと〳〵近付いて來まして、彼の馬を飾つてあります光澤あるに馬具に彼女の顔をうつして。「一寸こゝで貴女の顔を寫して御覽なさい、」彼女は云はるゝまゝに顔を寫して見ますと其顔は滑かで、光滑つやして居て丸で若い胡蝶の羽の樣でした、「こゝにうつるのは一體何誰ですか？これは私の顔ではありません、」「それが貴女の顔ですよ、」と男は申しました「けれど私の聲……しはがれては居りませんか？「車が石地の上を走る時の樣な聲ではありませんか？」「イヽエ、どうして貴女の聲は樂師の奏づる美しい音樂の樣です」彼女は後をふり返りながら、道路の彼方を指差して、「貴君御存じですか今少し前にあの二本の橄欖の木の蔭に姿を見失つた人は誰樣だか？」「あの人があなたの尋ねて居る人ですよ、あの方がナザレから出た豫言者です」と聞くや彼女は驚いて自分の手を組み涙は其眼にあふるゝ計りたゞ忍て「おゝ聖き主よ！　おゝ神の御力を示す御使よ！汝は我を醫し給へり」と叫びました。

　男は彼女を共に馬上に乘て山の麓の町に連行き、祭司や長老達に逢つて一分始終を委しく物語りました、祭司や長老等は彼女に注意深く尋問致しましたが彼等は乙女が荒野で癩病患者の兩親から生れたのであるといふ事を聞いて、彼女が癒されたといふ事を信じませんでした「お前の出て來た處へ歸れ、若しお前が嘗て病氣であつたといふならば、お前は一生涯中命のある限り其處に居なくてはならぬ、お前は市邑へなど出て來てはならぬ、我々に其病氣が感染したら、どうする大變ぢやないか」彼女は彼等に

向ひ『私はもう全快したのです、ナザレの豫言者樣は其御手を私の額にお置きなさいました。』この言葉を聞いて彼等は驚き叫びました、『一體それは何者だ汚穢れた者を清淨める事が出來るといふのは？　そんな事はみな惡鬼の業に違ひない、お前の親達の許へ歸れ、そして我々の中に騷動を起してはいけない！』祭司や長老達は彼女が醫された事を公言しないで而も彼等は乙女に市邑を立去る樣に命じ、若しや誰れでも此女を宿す樣な事をすれば同じく汚穢れた者と見做す』と堅く市民へ布告しました。祭司達が此宣言を致しますと乙女は野原で逢つた人に向ひ『私は何處へ行きませう？　再び荒野の癩病患者の許へ行かなければなりませんか？』男は彼の馬の背に再び乙女を乘せて、申しました、『否、どんな事があつても山洞に住む癩病患者の許へ歸つてはなりませぬ、私共はこれから二人で海を越えて清淨き者、汚穢れた者などゝ矢釜しい法律のない他の國へ渡らう。そして彼等は……

葡萄作がこゝまで話して參りますと奴隷は立ち上がつて、其話をさへぎりました。

『よく分かりました、これで充分です、さあどうぞ仕度をしてどうぞ私を案内をして一しよに來て下さい、私は明朝を待たないで、今夜直ぐ宮殿へ歸り度いと思ひます、王樣もフォスチナ樣もこの樣な話なら早く聞き度いと思召すでせう。

葡萄作は奴隷について出掛る仕度を致しました、妻は夫に向ひ、

『私は睡眠られません、凡ての人類を愛する人と、人間を嫌ふ人との會合はどんな樣子だらうと思つて……斯樣な會合は我々の此現在の世界を清める事が出來るのでせう。

シオンの都へ

老フォスチナはジエルサレムに上ろうとしてパレスタインを旅行して居りました。其豫言者を探して王樣の許に連れて來やうといふ大事な役目は他人に

なぞ任せておかれない、是非とも自分でしなければならぬと、彼女は老體をも厭はで馬上の人となりました。我々が此人に要求する處の物は金力や權力で釣る事は出來ない。誰れかゞ彼の足下にひれ臥して如何に王樣が危機に瀕して居らるゝかといふ事を告げたなら或は彼は其の病氣を醫して下さらぬとも限らぬ。誰れがチバリヤス王に代つて熱心に懇請するか？　王の病氣の爲めに王が苦しむと同樣に苦勞して居る者より私より外には無い。」

　チバリヤス王の病氣が癒るかも知れないといふ希望が出て來てから老婆の心は急に活々と若やいで來ました。彼女は大した苦困も感ぜずに遙々海路をジパーに渡り、そこから駕籠にも乘らずに馬の背を驅りながら、羅馬の貴族達や兵士及彼女に隨行して來た奴隸と同じ樣に少しも元氣が衰へずによく乘馬に耐へる事が出來ました。

　ジョパーからジエルサレムに上る旅路は老婆に取つて喜びであり、非常な希望に滿ちたものでありました。時節は丁度春の半、綾錦とり〳〵に咲き亂れる花毛氈の中を馬上ゆたかに旅の第一日を越えました。二日目には猶太の小山に達しましたが、其處に花がたくさんありまして、左右に相重なる山々の中を分けて行く一筋の道の兩側には、果樹が今を盛りと花咲き誇つて居ります。杏や柿の白や赤い花に見飽きた時には、活々とした藤の青葉に目を遣ります、濃い褐色の枝を慕ふて延びる其藤の蔓の生長の早さ、見る物活氣に滿ちて居ります。只に花や若葉が旅の興を添へたのみでなく、丁度其朝ジエルサレムに上る途すがらの大勢の人々の群を見る事も隨分面白いなぐさみでした、所々方々にある道や、小道、小山の中ただの淋しい山奧の方から旅人が出て來てジエルサレム街道に集まります、そして一人旅の者などは此等の人々とお互に道伴になつて賑かに語りさゞめきながら旅を致します。ノツ〳〵と行く駱駝の背に搖れながら息子や娘、嫁、聟、孫達の大家族に取り圍まれながら行く老人もあれば弱き足の歩む

に堪え兼ねて息子等に助けられながら、我子の孝行を自慢げに行く老母もあります。

眞個に少し位い心に心配がある人でも自然と陽氣になる樣な朝でした。空は余り晴れては居りませんで、薄鼠色の雲が輕く太陽を覆つて居りました。旅人は皆太陽の突き刺す樣な光線から免かれたのを喜んで居ります。此薄曇りの空に若芽や花の香は、いつもの樣に强く鼻を刺す樣に香らないで穏にあたりの小道や野面にたゞよつて居りました。此霞める風靜かな美はしい日には、夜中の休息や靜寂を思はせ、多忙の間にある人には、何か或意味を暗示して居る樣に思はれる、彼等の心の中は何とはなしに幸福に然も嚴肅な氣に滿たされて、靜かな聲で古い讃美歌を歌つたり、或は古い、虫の音の樣な音のする樂器をかき鳴しながらやつて來ます。

老フォスチナは此等の人民等と共に旅して居りましたが、彼女の心は彼等の喜悦や愉快の爲めに、思はずも引入れられて自分も非常に愉快に感じて居りました。彼女は馬の歩みを早めながら、傍に居た從者に向ひ、

『私は昨夜チバリヤス樣に拜謁した夢を見た、王は私に是非とも今日中にジエルサレムに着す樣に急いで呉れと仰せられた。何だか神樣が此美しい朝の間に其の都に着く樣にと夢で知らせて居らるゝ樣に思はれます』やがて彼女は聯々と長くつゞく山脈の頂上に參りました。こゝではどうしても止まらない譯には行きません、前には底深い谷間が景色のよい小山に取まかれて横はつて居ます。谷の薄暗い底からは大きな峯がそびえてジエルサレムの町を望んで居ります。城壁や塔でかこまれた、せまい山奥の町は丁度寶石を嵌めた樣に山頂の平地に其の日は非常な賑を極めて居りました。谷を圍んだ小山は美しい天幕や人々の群で賑はつて居りました。フォスチナは此の群集は何か大祭でも執行するが爲めにジエルサレムに上る途すがらであるといふ事を覺りました。遠近からの旅人は各自ジエルサレムに近所に來

て天幕を張り、歌た歌ひながら、祭りの歡喜に滿ちて、白衣の群集が波の樣に搖れて來るのでした、暫くの間老婆は此群集の動搖と處々に立並ぶ天幕の列を眺めて居りましたが、傍の供人なる若き羅馬人に向ひ、

「サルビシヤスや、眞個に人民は皆ジエルサレムへ上らなければならないものと見えるね」

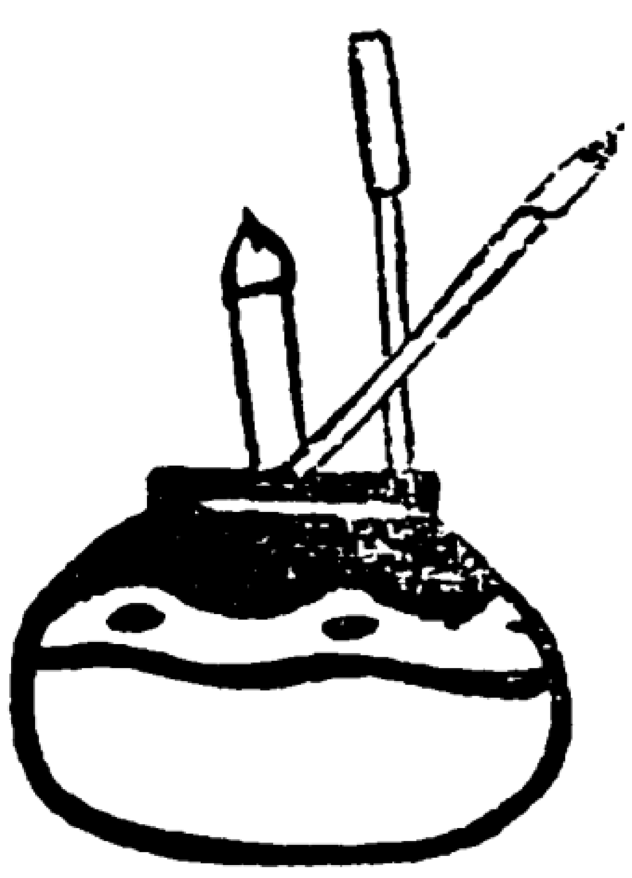
「仰の通り、彼等は春期大祭を執行するらしく、祭には、老若男女に拘はらず皆都へ上るものと見えます。」

「丁度お祭の時期に此町へ來たといふのは何といふ運のよい事だろう。神樣がきつと私共の旅行を祝して下さるお印なのだろう、お前はどう思ふ？　私がお尋ねして居るナザレの豫言者樣もやはり此お祭りにジエルサレムに御上りになつた事と思ふが。」

「左樣で御座います、其お方もきつと此都へ御出の事と考へられます、確かにこれは皆神々の御攝理で隨分御壯健に、元氣にいられましても、あの遠いガリラヤに長い、旅をなさるのは隨分お骨の折れる事で御座いますが、その苦しい旅をなさらずとも濟むといふのは誠に御幸福の事と存じます。」

やがて彼女等は旅人の群とに一しよになりましたので、彼女はナザレの豫言者はジエルサレムに來て居られるかどうか、と彼等に問ひました。

「私共は此祭り時には毎日〳〵此處で其豫言者に逢ひます、確に今年も此都へ御上りの事でせう、あのお方は聖き正義人ですから。」と旅人の一人が云ひました。」



THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334.



◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎船來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎船來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

米國女學生の進歩する理由

星野あい子

私は米國に居りました間に見聞きいたしました事の中で、最も羨しく思た事は米國學生の事で御座います。尤も私の申ます學生と云ふのは、高等女學校程度以上のカレヂの在學生を申すので御座いますが、彼等の頭は正確して居て物の判斷力があり、自分一個としての主張が二十前後の若い娘に十分御座います。私は日本へ歸りましてから我學生に比して殊に之を深く感じました。勿論日本では一には教育の歴史があまりに若いため、又一には家庭が學校と一致して學生の思想を確りさせやうと努力しない爲でも御座いませうが、著しい差があるやうに見えます。米國では子供の時から政治の事でも、その他いろ〳〵六ケ敷い事を聞かせますので、容易く六ケ敷い事を考へるやうになります。又米國の自治制について少しく申上ませう、彼國の寄宿舎には多數の學生が集つて居りますが、規則は先生に與へられるものでなく、生徒が寄り集つて造つたもので御座います。而して新入生に其を云ひ聞かせるやうになつて居ります。若し其を破ぶる者がある時は矢張生徒が是を審判ます、生徒にこれ等の權利が十分にあります爲、先生や父母と雖もこれを左右する事が出來ないのであります。

學校のいそがしい勉強の外に行つて居ります事は數々御座います。貧民の住む場所へ行つて彼等の仲間になり、彼等を助る等は彼國の學生の喜んでする事です、學校の忙しい朝がすめばぞろ〳〵町へ、貧民を助けるために行くので御座います、かゝる善事のため建物が何處の市にでも建てゝありまして、そ

こで貧民の子供に歌を敎へたり、體操を敎へたりするのです。
大統領ウイルソンの御嬢様は私の知人に斯う申された。「大統領の御嬢様としてそんな事をなさるのは勿體ないぢやありませんか、と私に仰つしやる方がありますが、主の御用をするのに感謝しなければなりませんのに何で勿體ないなどゝ云ふ事があるものでせうか」と。あちらの學生は身分の如何にかゝはらず喜んで主の御用として貧民などの友となつて居るので御座います。

又或者は夏休には毎日のやうに市中の貧民窟に行き一生懸命彼等をたすけて遣り又學校が始まつてからもその貧しい人々と手紙の往復をして喜んで居ります、或は八週間クラブと云ふものが方々の學校で行はれて居ります、此は田舍の者、殊に自分より若い女の人々を相手として山川につれて行き、科學的知識をあたへるためにつとめます、或は裁縫を敎へ、或は衰へかけた教會を導いて活氣つけるやうにするなどいろ〳〵の働をして居ります。

ボストンより少し離れた有名な、ウルスレー女子大學では卒業生や在校生一同で、支那北京に青年會幹事を送る事になり、今でも二人の幹事を送つて居ります。彼等は支那北京に行はるゝ青年會の事業を細く觀察し、或方々はこの事業に非常に興味を以て北京にわざ〳〵出かけて行かれて、實際見た事を報告する役目を自分から進んでして居られます。尚當地に止つて働きたいと云ふ方もあります、こんな方々があるからこそ青年會の働きが繼續して居るので御座います。

バサーカレーヂも盛な學校でありますが、東京女子青年會館のために數年前に四千弗を送つて下さいました。米國の學生は如何に外國傳道に興味をもつて居られるかこれによつても分ります。

ウインスロープ、カレーヂは工藝學校でありまして、こゝに學ぶ學生は貧しい家庭からくる者も多く御座いますが、彼等はどうして學資を得るかと申ま

すと、爰には學生働交換所と云ふものが組織され學生の作つた物、持ちもの、能力などを利用して學費に供せんとして居るのであります。そこに一つの事務所がありまして、學費の不足して居ります人々の名を記して置き、何か仕事を見つけてはそう云ふ人々に與へるやうになつて居ります。そして學資のない人は結構勉强する事が出來るやうになつて居ります、また某青年會幹事給料の三分の二は、此等の貧しき學生等より出でるとは誠に感心すべき事實ではありませぬか。

殊に今は戰爭の時でありますから、歐米婦人は殆ど男と同じ仕事をして居ります、斯う云ふ夏には女學生は果樹園に行つて全く男の代りに働いて居るそうであります。これ等は彼の國の學生の活動の一部にすぎませんが、私共日本の女學生も幾分かこれにならひ度いものと思ひます。

渡米者の栞（西洋禮法つゞき）

河井道子

まさ「三人とも昨日から何も頂けません。

夫人「船暈丈には如何とも致し方がありません、或人は食べるといけません――又或人は喰べぬと反つて醉ふのです、空腹だと反つて醉ひますから酷く胸が惡くなければ何か召上れ。

せい「甘味い物など思つても厭になります。

夫人「そうです、それで鹽氣の物が大變好いから鹽せんべいを御見舞に持つて來ました、鹽豆も一寸宜しう御座います、御飯の時に梅干が一番良い樣ですから少し持つて來ましたよ。

三人「とうも有難う御座います。

夫人「まあ兎も角も腹部を手拭二本位で好く堅く卷いて靜かに横になつて居るが一番です動くのがよくありません、けれど空氣が並は好くないから少しでも起きられる樣になつたらぜひ甲板へお出なさい。

なほ「此儘で宜しう御座いませうか。

夫人「帶なしではいけないから被布をきて足袋を穿いてお出なさい、可成甲板へ出て入來しやい。

三人「そう致しませう。

夫人「何だか臭い匂が致しますね、什麼したのでせう。

せい「それは這麼に大勢で寢て居りますし窓が小さいから空氣が惡いからでせう。

夫人「それもそうですが僅かに外の臭氣が致します。
まさ「ア丶忘れて居ました、私が大層漬物が好きですから見送に來た一人が船で食べる樣にと申して、澤庵漬を箱に入れて呉れたのですが、それが臭ふのでせう。
夫人「そうでせうそれはお捨てなさい、大根漬ばプン／＼臭つて人に迷惑になりますからその樣な物を室內に置いては不可ません、幾ら好きな物でも臭ひのする物は船室には禁物です。
せい「眞個に氣が付きませんでした、皆樣に御迷惑をかけたでせう
夫人「餘り永く話をして居ると貴女方の御邪魔になるから又伺ひませう、お大事に。
　數日後に一同大分船にも馴れ食事も進み甲板に運動する婦人等も數多見えました、西田夫人は三等甲板の隅で連の三人と樂しげに談話中です。
「夫人私共の方へお招きしたいのですけれど、船の規則で二等三等の船客が一等室や上甲板に行く事は禁示られて居ます故御氣の毒です、まあ、今日は此樣なよい天氣ですから可成茲に居てよい空氣をお吸ひなさい何か召上りましたか。
まさ「はい、もう今朝から御飯も美味しく頂けます、元氣も出まして皆喜んで居ります。
夫人「先程一寸御部屋を伺ひました時、どうも部屋の廻りの床に果物の皮や鼻紙や新聞屑で汚穢しう御座いました。
なほ「皆樣が何でも床の上に捨てるので、それが當り前と思つて居りました、滊車なぞでよく致すぢや御座いませんか。
夫人「眞個に日本の滊車程汚穢いのは世界中にありますまい、下の關邊りから東京に着きます滊車など、途中で度々掃除はされるのでせうが宛然豚小屋同樣に散らかしてありませう、西洋では三等室でも決して床に屑を捨てる事は許されません。
せい「それでも奥樣果物を食べたりしまするに皮を剝かずに頂くのですか、御辨當の空箱の仕末に困りましよう、窓から投げれば危險だと此頃日本でこれを許して居りませんが、西洋では窓からどん／＼投げるのですか。
「夫人果物の皮を剝かずになど元より喰べません、又辨當箱を捨てるにしても整然と紙に包んで給仕や掃除人に賴んで片付けて貰ひます、それのみたらず西洋では暇なしに口を動かして居る旅行者は御座いません、食事の時間を滊車の中でも守つて居るから、日本の樣に乘るから下車る迄飲んだり食べたり致しませんので、掃除する人もさう手が掛らないのです、外の人は兎もあれ、貴女方丈けでも床に屑を投げ捨てないで下さい、船ならば直ぐ海へ投げて宜しいのですから此癖を付けて置かないと西洋に行つて排斥されます。
まさ「床を其樣に綺麗にして置くわけは、詮り日本の疊の上と同じ樣だからでしようね。
夫人「マー然うです。
なほ「其れだと米國では家に這入るたびに矢張り日本で下駄を脫ぐ樣に靴も一々脫ぐのですか。
夫人「否、靴は穿いたまゝですが、道路も清潔ですから、靴も汚れません――、又靴を皆よく磨き決して、二三日もすてゝおくなどの事はありません、靴の穢ないのは不精のしるしとさへ申ます。
せい「其なら床には何でも置くのに便利が良う御座いますね。
夫人「どうしまして、其麼ことをしたらば大變です。假令ば御茶を

飲んだあとで茶碗を床の上に置くことや、衣服などを床に脱ぎすてるなど、夢にもしてはなりません、これをよく日本人がして困ります。其を日本の疊の上とは大違で皆卓の上なり、臺の上に置くべきものです。

まさ「それで卓などが御飾てなく本當に入用なわけですね、わかりました。

夫人「一寸おなほさん、あなたの髮が餘りバサ〱になつて居ます、もう少し堅固お結ひなさい、そして、若し持つて居られたら足袋の下へ長い靴下を穿いて居たら、そんなに脛が見えません此間差上げた長い白い靴下を御穿になつたら宜しいでせう。

斯く話をして居る中、甲板の反對側に安物の派手〱しき洋服を着、ギラ〱とガラス出來の簪や指輪をはめ、厚化粧せる廿歳前後の女子が男子二人と戯けて高笑ひをして人々の注意を引いて居りました。

まさ「奥樣あの人は子供の時から米國に育ち、日本へ半年計り來て居ましたが、今度米國へ歸るのだそうです、あの樣なのが西洋風なのですか。

夫人「飛んでもない事、あれは極下品な米國人を眞似た人です、決して男子と譯もなく馴れ〱しく戯け廻るのが米國風でもなく、あの樣に安物を是みよがしに付けて居るのは、上品な米國人の決してせぬ事です。

なほ「奥樣一寸あの後に居る女を御覽なさい。

夫人「椅子に重ね足をした年増女ですか。

なほ「ハイ、彼の人は布哇に永く居つて又歸つて行くのだそうです先程も種々布哇の話をして居ましたが、私共になにもそんなに八釜敷く禮儀や行儀を習つて行く必要はない、反つて日本よりも不作法な風で結構だと申して居ります。

夫人「夫は困つた者てすね、成程彼の人は日本服で西洋人の爲る樣に重ね膝をするものですから、あれ御覽なさい脛のすつと上まで見えるでせう、靴下でも穿いて居れば宜しいが何も穿かずに、彼の樣な風をして居るのは下賤の印です、彼の人の爲る事など決して眞似てはいけませぬ、矢張禮儀は何でも守り、好い處は何處迄も失はぬ樣にして居なければ日本人が尊敬されるなど、は夢にも思はれません。

なほ「奥樣大層御暑くなり出しましたではありませんか。

夫人「そうです、布哇に近くなつたので貴女方も下着の厚いのを御脱ぎになつて、明日邊りはソロ〱單物を着て其上に被布が丁度宜しいと思ひます。

まさ「嬉しい事、もう陸が見えますか、布哇には幾日碇泊致しますか。

夫人「大抵十二時間です、朝着けば夕方に出帆しますし、夕方に着けば翌朝出帆致します。

せい「奥樣私共も上陸が出來ますか。

夫人「出來ますとも、只よく乘り後れない樣に時間を始めに聞いて行く必要があります、十二時間位と思つても荷物の都合で種々に變更ことがありますから。

なほ「私共三人は第一に風呂に行き度いのですが、湯屋がありますか、船では御承知の通り浴場がありましても小さな風呂に大勢這入る事故、湯が汚れそれに鹽水でさつぱり致しません、どうしても湯に入り度と思ひます。

夫人「日本人として無理ならぬ御願ひですね、どうか致しませう、布哇には日本人が大勢居りまして、日本の旅館もありますから、入浴の便はありますけれど土地馴れぬ洗湯には行かぬ方が宜しう御座います。又上陸の時荷物はみな置いて行きなさい、只ほんの入用の物丈け持つて行きませんと、税關の人々が一々調査て八釜敷う御座います、如何程風呂に入り度も石鹼だの手拭を金盥に入れて露出しで提げて行つてはいけません、御持ちなさるのなら護謨の手拭袋へ石鹼や手拭等を入れそれを手提に入れて持つて行くのが一番宜しう御座います、又暑い處ですから洋傘も持つて行く樣に用意遊ばせ。

まき「何々を見物致しませう。

夫人「さうですねワイキヽ濱と申す奇麗な海岸がありまして、其邊に世界に有名な水族館があります、又其附近の公園地を見物するのが一番でせう。

せい「奥樣案内者は賴めますか。

夫人「それは一寸若い娘さん達に六ケ敷い事です、まあ私が付いて居りますからお世話が出來ませうが、若し出來ない樣な場合には一番安全な方法は、船から上陸すると直傍に基督教青年會案内所と看板を掛けた小さな事務所が波止場から街に出樣とする所にあります、此事務所に大抵何時も日本人の男子の方が居りますし、好く世話をして呉れます、その事務所へ行つて私共はこれ〳〵ですからと見物の案内など賴みますと、係りの者が女子青年會の方へ電話をかけるなり、又は安全な旅館を紹介して呉れます、それで一二圓位で一日中好く見物が出來ませうから、これが一番よい方法です多分その詰所に女子青年會の係員も近い中には出る樣になる事と思ひます。

・　・　・　・

春洋丸は十六日間の航海を終へて、明後日は愈々桑港に投錨んとする日となりました、船員船客の區分なく皆上陸の仕度に忙はしく三人の娘は嬉しげに、夕日を眺めて甲板に上り最後の注意を西田夫人から聞いて居ります。

夫人「永い樣ですが、もう二日後には米國と思ひますと變な氣持が致しますね、皆樣航海中好く注意て私の云ふ事を守つて下さいまして、世話の仕甲斐がありました。

三人「お蔭樣で斯うして幸な旅行が出來まして有難う御座います。



彙　報

神戸仙臺修養會にて各支部の一ヶ年間の報告を得たれば其梗概を左に掲ぐ

神戸女學院

(一)成功、鐘ヶ淵紡績女工のため、昨年十一月河井先生と米澤先生とに御講演を御願ひ致せし後は、彼等との連絡のつきし事、傳道部の集りを金曜日の朝禮拜時間にするに到りしより、全校の生徒に有益なる話を聞かす事を得るに到りし事、學生祈禱會の後數日間青年會役員の指導の下に各級にて晝食後祈禱會を開き十數名の決心者を得たる事

(二)内部にては青年會例會の充實する事に力む、外部にては鐘ヶ淵紡績女工のため時を得て集を開く事

(三)收入は會費と每金曜日の仕事會にて造りしものを賣る事と、寄宿舍にて卵を賣る事、年一度位のバザー、或は音樂會を開く事、支出は年に四十五圓を傳道會社に送る事と、青年會經營の日曜學校二つの家賃、カード代、社交部にて會費病氣見舞の花代と、貧民窟又は孤兒院等の寄附に用ふ。

ウヰルミナ女學校

困難に感じた事、失敗、良心箱の事で學期の初めに間違のあつた時、青年會の例會に先立つて信者ばかりの集を開くと未信者に好い感情を與へない事。成功、每週各組講堂に於て代る〲、一月に一度講師或は學校の先生に御講演を願つて結果よし、全體の祈禱會の時、決心者の集りを別の室で開き、先生にお話しして戴く事を初めし事。本部に對しての注文、一年に一二度幹事の方に來て戴く事。希望、會員すべてが青年會の事に興味を持つ樣な方法を講ずる事。本部に度々通信を仕度い事。收入は如何にして得るや、會員二百人餘りで正會員より四錢、準會員より三錢づゝ每月集める、販賣部の純益と此一年間の賣上高は三百四十五圓八十六錢で純益は六十四圓十錢餘り。

支出　販賣部の純益で青年會の修養會へ代表者五人を送る。方々への寄附は青年會費の中より慈善費と

して二錢づゝ領收。救世軍、博愛社癩病人、當校附屬の日曜學校其他二三ヶ所へ贈る一ヶ月一度の講師への御禮。

プール女學校

成功(1)紡績工女の神に導かれつゝある事。(2)日曜學校の盛んに行はれ居る事。(3)月曜金曜の兩日に別れ〳〵催さるゝ祈禱會の共に盛んなる事。(4)毎學期博愛社の一人の子供を養ふ費用を納め得る事。(金高十六圓)(5)山室夫人のため喜びて數日の内に十七圓を出したる事。

困難　役員の働きを統一して會員に滿足を與ふる事

失敗　唯報告の時間としてのみ會合するが故に親睦の時を得ざりし事。

收入　會員二三十名程につき年三十九圓の收入あり且つ會員の寄附をも受納す。支出、夏期修養會代表者の旅費及び聽講料に二十五圓、慰問部の働きのためにまた日曜學校の爲めに若干、病者の爲め十圓、女子青年會に屬する給品部(販賣部)より二十五圓夏期修養會代表者のため。

本部に對する要求(1)青年會雜誌をも少し小供的にして頂き度き事。(2)時々本部の役員を送つて頂き青年會事業を解得すべく導き給はん事を。

未來の望(1)青年會事業の内の親睦會を開き度き事、學生生活の間のみではなく卒業後も人の爲につくす精神を養ひ度き事。

女子青年會のプール女學校區分事業

日曜學校　慈善會　博愛社　慰問部　紡績女工

給品部(販賣部)　祈禱部　雜誌部

梅花高等女學校

(1)困難、委員を選ぶ事。(2)成功博愛社の兒童を招きし事。毎日曜病院に花とトラクトを持ち訪問せし事、(4)仕事料の爲に會員各々毎週二錢づゝ儉約して集めるのが有意味になつた事。

(4)將來の希望、會員が共同して青年會の爲に働く事日曜學校及び共勵會を助ける事、仕事料の爲めに一週に一時間仕事をする事。

(5)會計　(イ)收入一年に五十錢二回に集む仕事料一週に二錢。(ロ)支出博愛社を招きし費用、講師の御

禮、親睦會の費用、仕事料花、トラクトとの購入。

名古屋金城女學校

會員百五十名、特別會員十七名青年會の事業を經營する爲に會員より左の費用を徵收す。

一、會　員　一學期金 十 五錢

二、特別會員　同　金二十五錢以上

成功、講演會に各學年より一二名づゝ選びて短き感話をさせる。共務會を毎週木曜日午後開く、生徒が喜びてするにより意外の收益あり又他の者の爲に働く精神を養ふ。毎年五六月有志の人々を招きて大傳道會を催す(生徒の爲)引きつゞきて一般の人の爲になす悔心者及び決心者多し。

困難、未信者の入學が多くなつた爲、青年會員がよほどしつかりしなければ同化されるやうな傾きがある、それでよほど信仰をもつてこれ等の方を會員の言行によつて導かねばならないが、それがなかなか出來ない。

仕事、共務會木曜日午後(一時間) 製作品、皿敷、花瓶敷、エプロン、麻糸結び、ハンカチーフ、襦袢の袖、袋物、ペンふき。販賣、學校にて或は輕井澤方面にて。

慈善 白耳義、山室機惠子、紀念事業、愛知縣下の憐なる人々(救世軍に御相談して)。

同志社女學校

困難、學校と關係なき事、矯風會と青年會と共存する爲例會を開く時間場所につきて脫會者に對する處置。

成功、組會を設けし事、求道者會を設けし事、會則を印刷して配布せし事、集會者、會に對する熱心の增加。

失敗、指導者の當を得ざりし事、本部との關係を親しく量らざりし事、脫會者の出でし事。

將來の計畫 例會を年齡によりて分ッ事、本部へ通信を怠らざる事、通學生のため宗教的集會を催す事原薄をつくる事。

本部に對しての希望、青年會雜誌に各部新しき働きを紹介して頂き度き事、幹事を時々送つて頂き青年會の意味を廣く說いて頂きたき事、青年會雜誌に少

女欄を設けて頂き度き事、面白い宗教的讀物を紹介して頂きたき事。

財政、收入の部、正會の會費一ヶ月　五　錢
　準會員同　　三　錢
財政部より仕事部販賣部の收入
支出の部　青年會本部へ二十圓　雜費
寄附　救世軍へ五圓、健康會へ五圓、山室夫人紀念館建築費十四圓外數回五圓六十八錢、去六月九日の音樂會の純益六十六圓三十八錢五厘、合計財産百五十三圓六十五錢五厘内六十五圓を代員の費にあつ、現財産金九十一圓六十五錢五厘

横濱英和女學校　困難(1)集會の時間の都合悪しく出席者の數の減ぜし事。(2)青年會の未だよく理解されざる事。(2)成功(1)教會の親睦會に於ける賣店の成績、學校内の傳道説教會の後の集會部の活動。
失敗(1)販賣部の失敗　今後の希望(2)役員の一致(3)バザーを開く事。(4)喜んで會の爲に一同の者が働き又喜んで集會に出席する樣にする事。

本部に對する注文、本部と親しくなして本部の働きをも知り又教へ導かれ度き事、それには度々集つて意見をも取りかはしなどする事よき方法ならん。
收入及支出　現在會員數　八十八名　會費一ヶ月三錢販賣部の利益仕事部の働き特別寄附をあてゝ收入とす教會裝飾の爲に花にて教會を飾る、日曜學校家賃、福音新報代、講師の謝禮金、修養會代員費等に支出す。

横濱フエリス女學校　困難　通學生と寄宿生との中に青年會の事に祈る連絡の薄き事。
成功　昨年四月以來全校の生徒を分ちて高等科本科五年生の信者なるもの又は先生方の御助をかりて小さいクラスに分けて導いて居る事、其後親密に青年會がたもたれて居る事猶續いて開かれて居ります。
此度なさんとする事は我青年會の標語を選ぶ事。
本部に對する注文幹事の方々がもつと増ししげく私共の間にまわられて靈的教訓を與へられん事。青年會雜誌が一方には少さなクラスの者も讀んでイン

タレストを引き起させらるゝ様な記事を載せらるゝ事、もつと廣く讀まるゝ様にしたい事。
收入　全校中の青年會より一學期に十錢を集め其數は五十人程其他の者よりは月一錢の會費を取る、仕事部宿寄舍内の販賣部時々果物のパーテーを開いて若干を得又先日來アイスクリームの賣店を開き多大の金を得たり。
支出は多分慈善の爲の寄附講師謝禮金日曜學校費用其他細々の事は略す。

捜眞女學校

全員數　正會員　六十四名　準會員三十二名、贊助會員廿六名　合計百二十二名。
宗教部　日曜の夜組會を開く事、講師を聘して講演を願ふ事、備考此部は特に信者のため。
聖書部　木曜組會を開き特に通學生のため集會をなす。
備考　未信者のためにして昨年度に於ける求道者卅二名内バプテスマを受けしもの廿二名。
誘導部　會員誘導の任にあたる入會者卅九名得たり

社會事業部　昨年十月本校共練會聯合して開校三十年紀念に際し三日間に渡りバザーを開く純益約四百圓二百圓を青年會にて得たり、十二月貿易新報社が貧民に正月の餅を配布するに際し炭一俵鰯一束を廿五軒に配布す、同十二月古衣古足袋を集めて東京傳道義會に送るアルバム百ばかり作り聖句を書き入れ病院に送る。
財政部　收入三百圓四十五錢五厘、支出百卅八圓六十七錢。青年會員主となり神奈川地方及び八王寺線に十六校日曜學校を有し毎日曜平均三百人以上の生徒集める。

東洋英和女學校

(一)麻布青年會は傳道部祈禱部販賣部、社交部、矯風部、仕事部より成る（各部の下二三人乃至五六人の委員あり）
(二)毎週水曜日を集會日と定め傳道部、矯風部等主催にて校外或は校内の先生に御講話を願ひ且つは委員等の感想をのべ傳記を語ることあり。
(三)事務例會は毎月一回と定む。

(四)月に二回即第二及第四金曜日夜七時より九時迄仕事會を開き會員一同相集りて手仕事をなす、年に三回乃至五回のバザーを開きて製作品をひさぐ即四月卒業式十一月文學會の機など來客ある場合其他クリスマス及著中休暇前に開く、物品外に手製の西洋菓子など賣るを例となしをるが、常に甚だ結果よし。

(五)年に三回社交部主催にて誕生日會を開き面白きゲーム等をして互に親睦す其他三月には卒業生送別會四月には新入生歡迎會を催すなどいづれもの部の働をなす所なり。各自誕生日には感謝金を投すべく誕生日節の備あり、此金額はすべて年末に至りて日曜學校へクリスマス贈物のために給す。

(六)販賣部は學用品及び必用なる日用品整へ通學生及寄宿生の便宜に備ふ。

(七)矯風部は祝儀無祝儀の場合書信を出し且見舞をなすを働とす。年二回赤坂、慈善、赤十字の三病院に花を持ちて見舞ふ。

(八)毎日曜日午後六時半より半時間青年會祈禱會を開く(但毎月最終の日曜日は午前七時より七時半迄早天祈禱會とす)

本年度主なる寄附(支出の部毎水曜日の講演御禮代員を送る金外人慰問)

支那傳道へ　拾圓。熊本癩病々院へ　五圓。

目黑癩病院へ　七圓。日曜學校へ十五圓。

永坂孤女院へ　三圓。

外村義郎氏傳道義會へ　五圓(クリスマス特別寄附)

新聞傳道　七圓五十錢。同氏施療病院毎月　一圓

聖書會社監獄傳道補助金　七圓。

山室機惠子姉紀念講堂寄附　二圓。

ロシア兒童の爲　拾圓。

米澤大火の際慰安金として　拾圓。

合計　金九拾六圓五十錢。

の寄附をなしたり。

暑中休暇中タラントマネーは此年試みしに成功なりしを以て尚本年も試み居れり。今年度は二圓五十錢の元金にて八圓八十錢即六圓三十錢の純益ありたり

以上　收入の部約六十五名より金費仕事部販賣部バザーより造る、困難失敗別に無し。

女子英學望

困難　私どもの學校は高等女學校を卒へてから入る學校で御座いますので色々な種類の學校から集まつて居ります、其中ミッションスクールから參りましたものなどは大概信者で聖書の知識も相當に持つて居りますが大部は未信者で入學後初めて聖書の研究を始めて受洗されるといふのが多く御座います而してそれらの人々を誘導するのに最も困難を感じますのは御恥しい事ながら勉强の爲に信者であつても種々な口實のもとに其責任を全うせんとするだけ信仰のない者が未信者の躓となるといふ事で御座います。

成功いたしました事は聖書の組の事でも申上げませう、聖書の組は皆で十二御座いますが時々受持の先生が御代になる爲に同じ所を二度も三度も操り返して習ひ或部分はちつとも知らないといふ風に、何年經つても福音書の一つを一貫して知る事が出來ない樣な恐れが御座いましたが、今年はマクドナルド先生や青年會の先生方やその他の方々の御盡力により前の先生の御教へ下さつた所との聯絡を取つてなるべく前に進ませるやうに致し、一學期は都合により(學校の)豫科實習料は始めてをりませぬが、其他の組は大層順序よく過しました、此頃は毎日控所に聖句を揚げることを去年あたりから實行いたして居りますが、大變興味を持たれる樣になりました。

これから致さうと思ふ事は來學期から講演會を成るべく多くいたしまして、其中一度は直接社會事業に當つていらつしやる方とか、又は監獄に働いて入らつしやる方などに私たちの知らない、社會の實際的方面について講演を願ふことに致したいと存じて居ります、それから基督教の小冊子を購入いたしまして勞働者女工四人などに與へる事が出來たらと役員たちは相談いたして居ります。

收入は毎學期會員各々から二十錢づゝの會費を集めましたのと販賣部の利益と臨時の寄附などで御座い

ます、一學期は學友會の方でバザーを開きその收入が案外多うございました所から、學友會員一同の賛成により四十八圓五十錢を青年會に寄附してくれました支出は外村先生の御事業のためや、救世軍家庭學校回春院などに毎月或は毎學期寄附して居ります今年は十三人の代表者を修養會に送る事が出來ました、又此夏期休暇に十打ばかりのハンケチの布を買ひまして會員の人々に二三枚づゝ縫つてもらふ樣にいたしました、來學期クリスマスまでに貧民への贈物として着物など縫はふと思つて用意いたして居ります。

青山女學院

一、四五年前からの傾向とか伺ひましたが、宗教的反動とでも申ませうか、宗教學校に有得べからざる一種の空氣が校内にありまして、その中にあつて青年會はその目的のためにつくす事は試に困難に感ずるもので御座います、又委員が社會的常識を缺いて居りますため、思ひがけない心配事を引き起す事もございます。

二、先づ失敗の事から申ます、一に對して答へましたやうな次第で昨年集會者少くまた脫會者も數ありました事は、一つの大きな失敗で御座います。

三、(1)新學年に於て前の失敗を取り返した事、又規則改正をなし、本會の基礎を確定した事これは大切の一つであるかと思ひます。(2)手藝部宗教部の隆盛(3)販賣部の發展。

四、尚一層會員の信仰を確實にし外に向つてもつと〱ひろく有益に働きたいと思ひます。

五、今の所これ以上注文申上ぐる事ありません。

六、(1)仕事部にて一學期平均十圓内外。(2)販賣部にて二十圓内外。(3)その他臨時の働にて十圓内外收入があります。(4)暑中休暇五錢づゝを働す事。

宮城女學校　會員數　百九十七名

内正會員百二十名、準會員七十七名、日曜學校敎師二十八名。

成功(1)今學期に於て星野光多先生の御講演により約四十名の決心者を出せし事。(2)毎月一回各級に於け

る祈禱會及び日曜の日、夜西洋館にて西洋の先生の御話の後生徒有志の祈り會。

不成功　前學年に於て開く筈なりし支部修養會。

困難(1)無宗敎なる學校より高等科に入學する人達を導く事。(2)寄宿舍の會員と通學の會員との親密しがたき事。

收入　(1)會費　各人三錢　一ヶ月五圓九十一錢
(2)販賣部　(3)音樂會　純益約二百圓

支出(1)本校支部修養會。(2)本部の夏期修養會に代表者を送る事。(3)施療患者慰問につきて。

弘前女學校　會員數九十六名、正會員六十二名、準會員三十四名　會許收入學期末三十圓乃至四十圓

王女會の仕事部(一ヶ月二回乃至三回)

支出慈善、講演會、修養會代表者を出す事。

成功、祈禱會(月)一回一同喜んで集る事。

困難　矯風部の働きの中生徒の言行を矯正する爲各級に二名の委員を立て努力しつゝあれど中々好果現はれざる事。

遺愛女學校　會員總數　百二拾五人

正會員六十七人、準會員五十八人、之を四部に分つ一年一回バザーを開く利益金平均八九十圓。右の金を日曜學校(七ヶ所)の家賃及びクリスマス花の日の費用となす、財政部材料の購入費用とす。

通學生と親睦を計るに困難を感ず、下級生の入會せし事に由りて彼等に眞の滿足を與へ又犧牲の精神を得せしむるに困難を感ず。

日曜學校兒童中不良なりし者近々善良になりつゝあり暑中休暇を利用して會員各々に金五錢を與へ、之を資本として各自に相應せる働きをなして倍或は數倍の利益を得、而して昨年は四五倍の利を得たり。花を作りて之を賣り又病院に持ち行き患者に與へまた讃美歌をうたひ聞かせ、彼等を慰むまた小冊子を與ふ。

盛岡靑年會　會員數　三十二名内八名維持員十六名正會員八名、準會員。

困難　官公立女學校の干渉ありて、自由に學生間に

働き得ざる事。成功(1)本年四月より聖書の組を開きその組には昨年まで教會に殆んど御見えにならなかつた女子師範の方々と女學校の方々は大變に喜んで入らして下さるので、この組を益々盛んに致したいと思つて祈つて居ります。(2)當年の修養會に出來得るだけ多く出席致したいと思ひまして四月から特別に仕事の會を開き一週に會員の都合のよい日の時間をきいて二度集會して手仕事を致しました主に作りました物はテーブルクロース小供のねまき仕事着等で御座いました、作り上げた物を賣りさばく方法としては六月にミセスタッピングの幼稚園に開かれた母の會と、七月のはじめに開かれたやはりミセスタッピングの音樂會とを利用いたしました、音樂會は夜分で御座いましたので、時節柄螢を籠に入れたもの、或は白扇をもとめてそれに畫を書いた物或は小供様方の爲めにお菓子のつゝみ等をも加へて賣り二回の純益金は二十五圓で御座いました。

毎日暑中休暇を利用して近くの農園より花をもとめ病院を訪問し病人を慰め、或は讃美歌をうたふて看護婦等の勞を慰めて居りますがこれも大變よい結果をみて居ります、不成功と思ふ事は別段御座いません。

將來の計畫　聖書の組をつゞけ仕事の會をつゞけ出來得るだけの時間を會の爲めに用ひて來年の修養會には皆様に喜んで戴くやうな報告をもつてまゐらうと思つて居ります。

本部への注文　秋に本部の方から、どなたかに來ていたゞいて特に女子師範や女學校の方々の爲にお話をして頂き度い事で御座います。

收入額、普通會員は毎月會費として五錢を收め維持員は一ケ年に一圓を收める事になつて居りますが一ケ年に十七八圓しか集まりません。

支出、慈善事業に力の及ぶだけを用ひて居ります、昨年の事業を申上げますなら、秋に遭難壯丁の慰問矯風會飛田遊廓運動費用として、山室夫人紀念堂建築寄附、キリスト教に關する圖書を求めて會員相互

その他の學生姉妹方と共にそれによつて惠まるゝやうにつとめて居ります。

札幌女子青年會　會員　高等女學校、女子職業學校、札幌裁縫女學校、北星女學校通學生有志。

會員數五十名餘。一、正會員卅名餘、準會員廿名餘

成功　三學校の聖書の組不成功無し。

困難　出席をすゝめる事。宗教心の乏しき事。

仕事　手細工をなして財政を助く。財政資金十五圓位使用修養會代表者の爲通知、雜費。

寄附北星園(孤兒院)

廣島女學校　困難(1)會員中に不賛成者のある事。本科三年以上は皆會員とならねばならぬ事と青年會とは如何なるものかといふ意の明ならざる爲に不賛成者のある事と思ふ。(2)役員及委員選擧に就きて役目に適當なる人を選ぶ可きか又は活動的の人を選ぶ可きかに大に困難を感じた又一つは下級生より選びたる時は遠慮勝になりて困難と感じた。

集會を開くに就きて、金曜の午後三時よりは仕事會を開き四時よりは例會を開くことに定まつて居る、(組々にて)然して師範科生は各組二分して例會に出席する事となつて居る然し時々仕事を早く止めて四時前に例會を唯組の者のみにて開く事もあり時には通學生は先に歸ることもあり時には師範科生が出席せざる事等ありて規律正しく例會を開く事を得ずして困難と感じた。

成功、日日曜の祈禱會(役員委員及有志者)初の間は祈禱會のある事を忘れて直に集る者少かりしかど此頃にては呼び歩かなくとも直に集る樣になり全體の者靈に滿され祈ることを得る樣になつた。

音樂會、先生及生徒の中より多く演奏者を得る事が出來又寄附金も多く集める事が出來た。

不成功に終りたる事　仕事會　無經驗な私共が初めて此仕事會を始めたる爲に一學期の終りに計算したるに利益を得る事なく却つて損をなしタチングなども一つ　他は出來上りたるものなく糸なども多く徒費し生きた金に用ひざりし事。青年會に委しからざ

る爲毎月收入の一部を本部に送ることをせざりしことや種々な方面にあまり寄附せざりしことは不成功に終りたる一つである。

未來に於ける希望(1)バザーを開く事　丁度十月には學校創立卅年祭がある故其時を利用してバザーを開かんと計畫しつゝあり。(2)學校內の賣店を青年會の物とせんと計畫しつゝある事。(3)講師を賴みて講演會を開く事。未だ嘗て青年會より師を招きて講演會を開きたる事なき爲來學期よりは月に一度或は一學期に二度講演會を開かんとして居る、書棚は寄宿舍のを頂きたる故に來學期よりは多くのよき本を集めんと計畫しつゝある。

本部に對する希望　會員の者一層悉しく青年會を知らせんが爲に度々幹事方を本部より送られん事。

收入　會費　百五十名の會員より毎月集む。

寄附金　仕事會、音樂會、園藝部より園藝部は學校內の畑の一部を青年會の畑となし花などを植え其花を賣りて其利益を收入の一部となす又紙屑の金。

支川の部　回春病院へ寄附此所に居る人々に土產物を送らんが爲五圓支出す、其他訪問員仕事員等。

夏期修養會の代表者を送らん爲七圓支出。

音樂會の寄附金の中より二圓を本に部寄附す。

修養會出席者一覽

第十二回女子青年會修養會講師及敎師幷に會員學校及び出席者の一覽表を左に揭ぐ

◎講　師

長坂鑑次郎氏　森　淑次郎氏　青木澄十郎氏
日野原善輔氏　新渡戸稻造氏　原　田　助氏
宮　川　經輝氏　林　歌子女史　梶原長八郎氏
稻垣陽一郎氏　城戶順子女史　星　野　光多氏
岩　崎　重三氏　矢野猪三郎氏　留　岡　幸助氏
井深梶之助氏　岩澤時子女史

◎出席者數

總數五百〇五人、神戶三百十四人、仙臺百九十一人
內譯　講師十七人、傳道婦四人、主婦二十餘人、敎師五十二人、餘は會員及學生なり

◎代表學校數

總數六十校

內譯　神戶卅五校、仙臺卅二校（但し兩會に代表せしもの七校）青年會三ヶ所

神戶修養會に代表されし學校左の如し

青山女學院（東京）　東洋英和女學校（東京）
女子英學塾（東京）　共立職業學校（東京）
香蘭女學校（東京）　東京音樂學校（東京）
フェリス女學校（横濱）　共立女學校（横濱）
英和女學校（横濱）　捜眞女學校（横濱）
英和女學校（靜岡）　同志社女學校（京都）
京都市立高等女學校（京都）　夕陽岳高等女學校（大阪）
梅花高等女學校（大阪）　相愛女學校（大阪）
ウヰルミナ女學校（大阪）　金蘭會高等女學校（大阪）
プール女學校（大阪）　市岡高等女學校（大阪）
大阪女子神學校（大阪）　神戶女學院（神戶）
神戶女子神學校（神戶）　ランバス女子神學校（神戶）
支那ミシン學校（神戶）　金城女學校（名古屋）
岡山縣立高等女學校（岡山）　津山高等女學校（津山）
廣島女學校（廣島）　福岡英和女學校（福岡）
活水女學校（長崎）　梅花幼稚園保姆傳習所（上田）
松山女學校（松山）　高知縣立高等女學校（高知）
京城高等女學校（朝鮮）

○上田しげ子　江原やす子　中森りん子
清水梅子　柴田文子　牧岡しま子
山崎龜美　澤田貞子　林千代子
井出朝子　成瀨くに子　君塚茂子
保野とみ子　小堀芳子　○稻葉光子
室原まり子　藤澤むめ子　石川貞子
松本初代　成島靜子　增田一枝
早瀨信子　鳴海くに子　ホ太田とし子
ホ西尾みつ子　上野不二枝　田中こと子
森木滿子　田中しげ子　日野原讓
藤田すま子　立戶和枝　持地雪子
澤村聖子　西山玉代　森もとゑ
堀江郁子　福永みね子　田村弘代
伊東みる子　富士きよの　乘附むめ子
石山梅子　北川榮苗　瀧澤まつ子
横尾靜子　喜內文子　○粕谷よし子
岩崎優子　小松久子　櫻根こう子
杉野とも子　岡本冬子　前田のぶ子
○富永さが子　長谷川千代子　猪尾節子
小畑和子　祗園貞子　島田すま子
○山崎なかゑ　兒島眞佐子　太田節子
鷲森みさを　黃妙鄉　鄭佩涼

鄭 光嬰
吉本朝子
阿村小梅
坂井夙子
大山千代子
中島つる子
小川弘子
芦田かめ子
宮川増世
玉林眞乃
○小松原季子
田中ます子
林 しけ子
○今井光子
○原田しげ子
岡本郁子
サイ崔 英子
畠中清子
デ重里きぬ子
近藤隆子
藤井歌子
○荒川かつよ
○藤田まさ子
湯淺とよ子
原田秋子

○永見愛子
林 あき子
山根一枝
森 信子
水野たか子
關口かね子
深見八千代
豐島ふえ子
神山知壽子
木田美智子
杉田あい子
福井喜代子
○陶山よね子
○佐々木しげの
原田やす子
内藤しのぶ
海老名一枝
畠中すが子
黒崎龜代
横尾博子
龜井きよ子
三原なつ子
森下滋雄
佐々木あい子
秋田鶴代

櫻井きみ子
河原一代
原井淳子
吉本みどり
美原治惠
豐島福枝
○小田八重子
林 彰子
古木柳子
秦 しむ子
石神百合子
永田龜子
○山根妙子
○馬場靜江
高田つや子
土肥せい子
關田田鶴子
佐藤なみ子
松本みつ子
○奥村ふみ子
高里清子
大竹只代
松岡いさ子
原田芳子
鵜飼靜子

佐伯忠子
加藤滿子
○小池君惠
デ吉村よし子
杉 みさを
○ミス、ストー
谷 ひさゑ
高橋時子
三奈木淑子
○秋元俊子
松本千惠野
奥村政枝
溝手あい子
黒木 輝
田中潔枝
岡田より子
田中直子
小森俊子
○織田やする
山崎 操
森波久子
佐藤なみ子
矢野あい子
河原文子
○藤林榮子

長谷川郁子
大壺初枝
副島すぎ子
ミス、コー
服部矢須
○莊原秀子
井口勝子
富永初子
増井花江
能勢靜子
米澤尚美
松原榮子
○國米八千代
和久山駒子
公家たき子
木村初子
金子まさ子
竹内みどり
細谷常子
○森 やす子
足立あい子
○長谷川つや子
吉松靜江
田中靜子
野呂八重子

原 美榮子
兒玉とみ子
末永惠美子
志立たよ子
○ミス、ストー
江本浪子
黒羽ちとせ
佐藤恭子
村杉みどり
橋南しづる
武川千代子
山岡愛子
渡邊君代
福井幸子
小出 泉
松浦清子
北村梅子
小山いだ子
馬場みさを
關口よしゑ
平宇富美子
川本とし子
長谷川幾子
○青野靜江
宮本ゆき子

田部井きみ子　關口巴榮　谷野ゆき子　末森まふじ　竹内梅子　濱田しげ子　高見淺野　外山なり子　平操子　坂部靜子　高橋みさを　田宮しかゑ　波多か代子　伊藤はる子　中村姉　新倉とみ子　久米鶴猪　友井まさ子　姫宮すみ子　芦田すゑ子　山中洛子　吉川ちか子　○村松姉　志立たき子　ミス、マシウ

岩瀨あい子　岡田榮子　秋元豐乃　倉敷姉　高見松子　野口姉　濱田成子　野口信子　大島たか子　横田いる子　デ奥山もと子　内藤幸子　早川俊子　原いと子　内池よね子　竹内貞子　○湯田きみの　杉浦久代　直井みや子　井上かつ子　デ日野原滿子　吉田せい子　田中美智惠　宮川幹枝　藤田とき子

上田貞子　横川とよの　舘かの子　松本なか子　才賀孝子　橋本廣子　阿部久子　宇川朝子　橋本さだ子　近藤輝子　渡たけ子　山下千代子　今村とみ子　谷口いと子　新峰子　陶山百合子　杉浦信子　友井よしゑ　三宅なつ子　佐野米子　中村悦子　古木たま子　星野愛子　中路ちか子　小池實惠

ミス、ハード　ミス、エマソン　ミス、ガンタ
ミス、マクドナルド　ミス、セール　ミス、ゲーンス
松宮信子　河井道子

仙臺修養會に代表されし學校左の如し

弘前女學校(弘前)　遺愛女學校(函館)
宮城女學校(仙臺)　北星女學校(札幌)
同志社女學校(京都)　金城女學校(名古屋)
フエリス女學校(橫濱)　共立神學校(橫濱)
女子英學塾(東京)　捜眞女學校(橫濱)
小松實科高等女學校(石川縣)　東洋英和女學校(東京)
女子學院(東京)　御茶水高等女學校(東京)
三輪田女學校(東京)　學習院女子部(東京)
明德小學校(東京)　女子大學校(東京)
森村小學校(東京)　渡邊裁縫女學校(東京)
東京神學社(東京)　共立女學校(橫濱)
青山女學校(東京)　尙絅女學校(仙臺)
聖心女學校(東京)　女子職業學校
東京齒科醫學校(東京)神奈川縣立高等女學校(橫濱)
宮城縣立高等女學校(仙臺)　盛岡師範學校(盛岡)
學習院附屬幼稚園(東京)　兒童研究所
盛岡青年會(盛岡)　東京青年會
橫濱青年會

高谷くに子
山内節子
及川直子
山崎きぬ子
杉田正子
○姫浦きし子
龜井つや子
松村とじ範
長野八千世
鳴原とみ子
伊藤きす子
佐伯ます子
松村ふみ子
成田榮子
阿部あい子
福井こう
熊谷はみ子
內藤みよ子
林なほ子
加藤ゑい子
佐藤きく子
吉浦まつ子
松倉たま子
坂西しほ
岩崎ます子

岩井あさ子
○野口文子
常野ふみ子
田尻登喜代
小熊ふみ子
笠原つる子
條ふみゑ
鈴木みゆき
菅井柳子
佐藤かめ子
○佐藤正子
小野さわ子
金澤きく子
桂島あい子
橋本惠子
門馬貞子
高橋こと子
岩間あい子
井深八重子
黛くに子
吉田いと子
有馬まつゑ
稻垣しま子
南ひさ子
渡邊つれ子

伊香とみ子
竹中愛子
男澤光子
池田さだ子
內田秀子
伊東はつ子
菊地とか子
山浦仁子
杉山すて子
佐藤てい子
田中八重子
秋保うりう
中村きく子
森まつ子
勝部愛子
梶原小松
佐藤みよの
白濱みか子
平田八千子
佐藤正子
塚原姉
藤田みち子
吉岡喜久子
千葉きゑ
中村すみの

中島歌子
內田もと子
小篠端子
千葉たか子
成瀬もよ子
富澤美惠子
筒井千代子
瀧澤まつ子
原田久子
北畠みつを
星川姉
砂羽中姉
木村かつゑ
清水ます子
長池ふみ子
笠尾夫人
淺井はる子
野村たか子
金子かず子
佐藤姉
嵐田うん子
三浦みすを
木下さく子
中目いま子
石川さだ子

長谷川きよ子
高木きみ子
村岡まつ子
石川清子
赤羽修子
小越通年子
土井澤江
黒田あつ子
福井きた子
千野てふ子
吉野姉
佐藤姉
千葉ひで子
齋藤みどり
中村あさひ
土井八重子
成田千代子
小野たまへ
富澤みさを
太田いく子
田中まつ子
富澤あい子
莊司みどり
齋藤せつ子
ミス、リンゼー

內田勝代
間瀨靜子
千葉しな子
磯部とき子
千住まさ子
藤島杜代子
渡邊渡良世
○坂よし子
○ミス、マクロイ
永島めれ子
照井姉
長谷川とし子
岡ましづ
劉桂子
布施とかせ
今泉つや子
野村夫人
岩佐かよ子
及川まさ子
○岡本みどり
及川いく子
中村みち子
加藤よし子
片岡まつ子
稻垣もと子

岡本姉　中村姉　細谷はるぢ
福井なほ　佐竹夫人　及川みち子
山田はじめ　富澤つね子　中澤はる子
駒澤みち子　齋藤夫人　河井菊枝
ミス、ページ　ミス、グリーン　ミス、カフマン
志立たき子　廣岡淺子　笠間きく子
岩澤時子　城方順子　長谷川きた子
渡邊百合子　河井道子　加藤高子
ミス、マクドナルド　ミスガンタ　ミス、パーゼル
其他來客數名

ともがき

久留米市　石原龍子

皆々様には御すこやかに渡らせられ候や御伺申上候當方御蔭様にてどうやら暑さには打勝ち居り候へどもとかく惡魔には隙を得られ易く暑さの折は猶更修養の必要を感じ申候過日御開催に相成候修養會にも是非參加致度存居候ひしも三兒の母になりし身のなかなかに思ふにまかせず殘念に存候定めし有益なる集會なりし事と御報告いとゞ樂しみ相待居候

岡山縣高梁町順正高等女學校内　葛山喜代

幾何以前より待つたかわかりません女子青年會夏期修養會の日割と順序とを、今年こそは是非出席する積りで知人友人一人々々に委しく申上げて四五人出席すると話されて喜んで居りましたのにこの誘導せし私が當校の務めの爲休暇になり次第直ちに上京の止む得ぬ事の爲め出席もどうやら不可能になりました殘念でたまりません自分の考へでは是非せめて一日なりと半日なりとも出席致したい考へです途中下車して行く積りで御座います例へ會へ出席は出來なくとも心ばかりでも出席して會の盛大に且つ成功ならん事を蔭ながら禱つて居ります、どうか此會によつて多くの求道者の出來更にその求道者より一層多くの熱心な方が神の御救の内に入られん事を祈る次第で御座います。

四國徳島　高橋久與

今回は神戸女學院にて例のなつかしい修養會催されるを女子青年界にて承知いたし嘸かし日々よき實の結ばるゝ事と遙に御祈申上候今日は最早開會以來第四日目多くの親しい先生方や友人等亦心を以て私共同胞のため一週間を捧げて御祈り下さる事を考へる時思はず感謝と望とに滿され申候私も只海一つを越えて居るのみにて出席の叶はざる事を思ふ時只々殘念でせめてもの慰みに過ぎし夏の記憶をたどり日の入る頃大津の海岸に席を敷いて夕陽會を催し數百名共に伏して心ゆくばかり感謝祈禱を捧げしこと思ひ居候女子青年會の日割を見ては今頃は講演祈禱會親睦等と斷へず想像をめぐらして身は徳島に置き候も靈は全く女學院の會場に樂しく一週間を過し居る樣覺え先生方の御熱心なる御話も徳島へもたらす風の便に承り居る心地致申候本年は殊に私共關西の者のため御便宜を御與へ下され候神戸に此會を御催し下さるにもかゝはらず徳島支部より代表者の一人も出席に相叶はざる事はかへすがへすも殘念に一同存居候

高知　松原　榮

私事去年の夏より待ちに待ちし我校に於ての青年會修養會なれば是非とも居て御用にも立ち候はゞ思ふ樣働き申さんものと存じ皆々樣とも色々計畫立て居候へども急に家より姉が病氣なれば一日も早く歸へりて手傳ふ樣にとの手紙に接し殘念にたへず候歸省致し候も昨日今日は特に氣が落付き申さず只々御會の有樣諸先生の御面影のみ心に浮び出で朝夕御盛會ならん事御多忙中にも諸先生の御健康ならん事のみ祈り居候

米澤　上野俊子

神戸仙臺の修養會も終を告げました皆々樣の御喜びと御感謝如何ばかりでせう又力と愛に滿されて諸々に御散り遊ばされし皆々樣の御心思ふだに尊く有難く存じます兩方共誠に豐なる御集なりし由只々祈り居りました私は七月十七日頃より多忙を極め火事後すべて新になりました爲事務の整理に時がかゝりました併し忙しき中にも同志の者共二三人と共に聖書讀む時祈る時修養會の爲めとくに集り祈りました心は何時も淸き集の中にありましたかの大津の會の事を思ひ出しては祈らずには居られませんでした先生眞に仙臺へは私が參らずとも奈良から歸りました渡部氏を送りたくて二十五日にやう〳〵歸られましたが御都合惡く御中止になりました何事も忍ぶにあるので御座いますから喜んで二十五日に仙臺行を止め歸省の仕度を始めました種々の殘務に追はれ二十七日やうやう歸途につきました毎日今日は何の御話と恰も集會に出る心地して御祈りいたして居りました

カナダ　阪本、大呑、深井三人

水淸く島多き松島を思ひ出すマスコ湖畔に參り美しい景色を眺めながら私共三人はカナダの皆樣と修養會に列席致居候青年界にて御修養會の一節を讀み何卒日本の修養會も多大なる惠を受け女子青年會のいや盛にならん事を禱り居り候

個人消息

○早坂信子氏　七月二十六日平山六之助氏と東京芝統一敎會にて結婚式を擧げらる、御住所は東京本鄕田町三十七番地

○今井光子氏　五月二十七日岡山市日本基督敎會にて受洗せられ神戸修養會に山根妙子氏と共に出席ありたり

○葛山喜代子氏　數日間御上京、今回學校御辭職の由、陶山よね子氏も一週間上京され岡山に歸へらる

○カフマン氏　カフマン幹事の御兩親は三月渡來されしが八月十一横濱より出帆して歸國さる

○井出菊枝氏　東洋英和女學校出身の同氏は今回、米國ウオルナツトヒル校に入學のため八月十一日御出立

○野村美智子夫人　仙臺修養會に出席後北海道北見に留岡幸助先生の事業視察のため旅行せらる

○木澤かつ子氏　河井菊枝老婦と共に函館に行かる

○三上かなを氏(舊高析)　七月より東京の御實家に御里がへりにて樂しく起居さらる

○稻津八千代氏　長崎活水女學校出身の同氏は東京女子青年會寄宿の舍監代理を夏中務めらる

○ミス、マシュー　追々健康に復され八月中は兵庫縣下に靜養の事となれり

○大阪女子青年會　ミス、エマソン。ミス、ハードは九月より該地の幹事として大阪に住居すべし

○ミス、グリン　横濱幹事として九月より働かるべし

○ミス、ページ　ミス、カフマン等は富士見町よりして新築されし住家に移居、牛込區砂土原町三ノ二番地

○加藤高子氏　八月中房州に休養

○渡邊百合子氏　休暇は三島町に歸省

○松宮信子氏　ミス、ガンターと共に鎌倉に避暑中

○河井道子氏　例の如く浪人者の如し

○加藤咲子夫人　幼兒幸子樣を失はれ八月五日富士見町敎會にて葬儀擧行されたり

○本會事業費寄附金領收　（六、七、八月）

金五　圓也　靜岡英和女青會　柚山愛子
　　　　　　捜眞女學校青會　川本糸子
金拾　圓也　松宮彌平
金貳　圓也　廣島女學校青會　清流女青會
金百　圓也　廣岡淺子
金四拾五圓也　佐伯小糸

他は頁數の都合により次號に掲載す

○夏期修養會寄附金領收

金貳　圓也　和田花子
金壹　圓也　大平操子
金五　圓也　松岡鎭枝

○夏期修養會々場建築費寄附金領收

金貳拾五圓也　横川とよの

○會友會費領收

金參　圓也　山羽仙子（大正六ノ六－八ノ五）
○金壹圓八拾錢　葛山喜代（大正六ノ六－七ノ五）
○金壹　圓也
布施とよせ（大正六ノ九－七ノ七）井上玉枝（同　上）
藤井歌（大正六ノ七－七ノ七）宮川幹枝（同　上）
土井八重（大正七ノ一－八ノ十二）小林勝（大正六ノ一－十二）

○雜誌「女子青年界」代金領收

○金八拾錢也
三井捨（大正六ノ三－七ノ二）川上ちか（大正五ノ十一－六ノ九）
三好待（大正六ノ一－十二）上村まつ（大正六ノ六－七ノ五）
相田てい（大正六ノ五－七ノ四）志佐信子（同上）
高橋まさ（大正六ノ五－七ノ四）前田みよ（同上）
スマイザー（大正六ノ五－七ノ四）相田貞子（同上）
佐藤とみゑ（大正六ノ五－七ノ四）小笠原とき（同上）
濱田利吉（大正六ノ四－七ノ三）田村すみ（同上）
福原なみ（大正六ノ一－十二）五十貝晴子（同上）
梅花幼稚園（大正六ノ五－七ノ四）雨森みち（大正六ノ二－七ノ一）
笠原あや。清水種子（大正六ノ四－七ノ三）荒川直子（同上）
兒玉孝子（大正六ノ八－七ノ七）和田花子（同上）
中野民子（大正六ノ五－七ノ四）萬俵賀一（大正六ノ六－七ノ五）
森杉ウメ（大正六ノ六－七ノ五）

金七拾錢也　藤田まさ（大正六ノ一—十一）
金拾圓六拾壹錢　横濱女青會（大正六ノ五、六月百七部代）
金貳圓九拾五錢　荒瀬三船（大正五ノ一—七ノ四）
金壹圓九拾錢　松岡鎭枝子（大正五ノ一—七ノ六）
金壹圓參拾錢　高橋ため子（大正七ノ四—八ノ三）
金壹圓六拾錢　河合春子（大正五ノ十—七ノ九）
○金壹圓貳拾錢也
清水若子（大正六ノ四—七ノ三）柴沼ハンナ。姫浦キシ（同上）
中村玉子（大正六ノ四—七ノ三）鳥越ふみ子（同上）
金貳圓四拾錢也　ウヰルミナ女子青年會（大正六ノ二—七ノ一）
○金壹圓也
河本かめ（大正六ノ六—七ノ七）阿部つや（大正五ノ十—六ノ十二）
河西ふじ（大正六ノ九—七ノ五）豐田かめ（大正六ノ七—七ノ五）
萩谷けい（大正六ノ七—七ノ五）
赤津ウン（大正六ノ六—七ノ五）田丸剛。松本かな（同上）
宮崎貞（大正五ノ八—六ノ七）菊池ちづ（大正六ノ二—七ノ一）
飯田ふく（大正六ノ三—七ノ二）鈴木しの（同上）
增田一枝。伊東みる（大正六ノ七—七ノ六）
三浦美佐。山根妙。井上靜（大正六ノ七—七ノ六）
中島歌（大正六ノ九—七ノ七）德江亥之助（大正六ノ一—十二）
横尾靜（大正六ノ六—七ノ五）
○金壹圓六拾錢也
平沼さく（大正五ノ四—七ノ三）星野須磨（同上）
寺西もと（大正五ノ四—七ノ三）高瀬この（同上）
長谷まさ（大正五ノ四—七ノ三）岩崎きみ（大正五ノ三—七ノ二）
高梨ちせ（大正五ノ三—七ノ二）川島とも（同上）
岩倉櫻子（大正五ノ十—七ノ九）河合柳（大正五ノ五—七ノ四）
兒島信子（大正五ノ一—六ノ十二）津田よし（同上）
フェリス女青會（大正五ノ一—六ノ十二）廣岡とめ（同上）
金矢テウ（大正五ノ一—六ノ十二）中村たか（同上）
竹尾けい（大正五ノ一—十二）納戸町寄宿舍（同上）
大連基督教青年會（大正五ノ一—六ノ十二）龜井とと（大正四ノ十二—六ノ十二）
岡崎幸（大正五ノ六—七ノ五）小泉文（大正六ノ一—七ノ十二）
○金壹圓五拾錢也　酒井芳（大正六ノ六—八ノ三）
○四拾錢也　渡邊とよ（大正六ノ六—十二）
○金九圓四拾四錢也　廣島女青會（大正六ノ五、六、七月分）
○金七圓四拾四錢　宮城女青會（大正六ノ五、六、七月分）
○金七圓參拾八錢　遺愛女青會（大正六ノ五、六、七月分）
○金貳圓也　石井咲子（大正六ノ九—七ノ十二）

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回揭載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正六年八月廿八日印刷納本
大正六年九月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

SENDAI CONFERENCE

Motto:—John 8:31, 32.

Executive: Miss Hasegawa.
Business Managers: Miss Kato, Miss Ozasa.
Leaders: Miss Hasegawa, Miss Michi Kawai, Miss Taka Kato, Miss Kido, Miss Yuri Watanabe, Miss K. Harada.
Speakers: Mr. Hoshino, Mr. Iwasaki, Mrs. Hirooka, Mr. Yano, Mr. Tomeoka, Dr. Ibuka. Mr. Inagaki.
Bible Teachers: Mr. Kajiwara, Mr. Inagaki, Miss Kido, Miss Hasegawa, Miss Watanabe.
Place: Miyagi Jo Gakko.
Largest Delegation: Miyagi Jo Gakko,—40.
Second Largest Delegation: Tokyo Y.W.C.A.,—24.

"What is truth?" "How can it make you free?" "What is freedom?" Such were the questions which the 186 girls from 31 schools and 3 city associations were facing at the summer conference at Sendai. Answers to these questions were found in helpful addresses given by prominent men and women at general meetings twice a day, and in the four Bible study groups which met daily?

But not only in addresses and Bible study did the conference members find their answers. Intimate association with leaders and teachers; friendships formed, and exchange of ideas made, between girls of different schools and cities; wholesome fun on free afternoons; the bond formed on the trip to Matsushima by the common appreciation of the out-door beauties. the enjoyment of healthful out-door exercise, the earnest discussion of subjects which are easily spoken of only when one feels the inspiration of Nature's bigness and beauty and calm;—by all these means were the girls of the conference taught their lessons of truth and freedom. They learned that truth was to be found not only in study and mediation, but in the broad view which comes from associating with many people of varying characteristics and ideas, in learning to search out the interesting and helpful bit of truth which God has put into each individual, and in putting these bits together into a beautiful whole. They found that freedom comes from understanding God's nature and will, and that God's nature is to be seen not only in His written word, but in the lives of human beings.

On the closing night of the conference, each girl gave expression to her new desire and purpose by marching into the auditorium with her lighted candle and singing "Onward, Christian Soldiers," What girl, as she stood listening to Miss Kawai's reading about "Light" and "Truth," did not wish to be a true, bright light in God's world? And again, after the farewell talks by leaders and girls, as the candle-light procession marched singing across the campus and formed the big friendship circle around the splendid bon-fire, who did not wish to be a sincere friend,—giving to all other girls the opportunities to find love, truth, and freedom which she was finding? As she watched the bright fire, each girl was remembering that all light in the world and in the heart, came from Cod; and that each individual must take her portion from the great central source, and radiate warth and light in the big, cold, dark world. To each girl at that moment, Christ was asking the question, "Wilt you take the truth and freedom which I can give to you? And every earnest face in the circle was expressing the heart answer, "I will".

KOBE CONFERENCE JULY 18 TO 24.

In spite of the heat and the fact that this conference was the first to be held in Kobe the attendance was larger than ever before, the total registration being 314. The largest delegation was from Kobe College which sent seventy girls; the second largest was from Poole's Jo Gakko in Osaka, which sent twenty-four. In all thirty-four schools were represented.

One of the most delightful things about the conference was the warm welcome extended by Kobe College and the efficient work of the Committee of girls from the Kobe College Y. W. C. A. Both teachers and students did everything possible to make the conference a success.

The girls who attended the conference speak in glowing terms of the whole program, and especially of the sunset prayer meeting held in the cool of the day on the fresh green lawn. A picture of one such gathering appears on this month's cover. At least seven girls decided while at the Conference to become Christians.

Executive: Miss Ai Hoshino.

Leaders: Miss Michi Kawai, Miss Margaret Matthew, Miss Susan Searle, Miss Mamie Gunter, Mrs. Taki Shidachi, Miss Toki Fujita, Miss Mikiye Miyagawa, Miss Jitsue Koike, Miss Nobu Matsumiya, Miss Hide Shobara, Miss Ruth Emerson, Miss Clara Hard.

Speakers: Mr. Zensuke Hinowara, Mr. Tsunederu Miyagawa, Dr. Inazo Nitobe, Mrs. Uta Hayashi, Mr. Suke Harada, Mr. Chika Nakajima.

Bible Class Leaders:

Inquirer's class, Mr. K. Nagasaka, enrollment 20.
Philippians, Mr. S. Mori, enrollment 25.
Hosea and Amos, Mr. T. Mori, enrollment 25.
Junior girls, Misses Hoshino and Miyagawa, enrollment 28.

一、銀器類
一、貴金屬寶石細工品一切
外國人交際用贈答用品充實完備
内地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通一丁目拾貳番地
辨天商會

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omote Sarugakucho, Kanda, Tokyo.

ヴォーリス建築會社
近江八幡 及
東京基督教青年會同盟本部内
東京市神田區表猿樂町

和洋折衷住宅專門

宮内省
各宮殿下
御買上八回

桑港萬國大博覧會
銀牌受領

於博覧會共進會
金、銀、銅牌廿餘回受賞

甲斐國産

御申越次第商品目錄進呈

水晶細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛
装身具
床置物
珠數

指環 中差 簪 櫛 根掛 エリ止 帯メ 守玉 ピン カフス釦

印傳袋物

ニッ折札入
弗入
財布
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐 叺入 御殿持 巻莨入 火の用心 文人持

一水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉强仕り
御好みに應じ如何樣にも確實に御調進可申上候

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町
電話百〇二番
振替口座東京五〇六四番

後付二

女子青年界第拾四巻第八號（毎月一回一日發行）

大正六年八月廿八日印刷納本　大正六年九月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

腸内の病原菌を死滅せしむる唯一の

整腸常備藥 ラクトスターゼ

長壽保命の要素と稱せられたる乳酸菌の製劑たる本品は腸内に繁殖する各種の病原菌を死滅せしむる作用あるのみならず、腸内の腐敗醱酵を制止し、下痢便秘等を豫防治癒せしむる効顯著なる爲め總ての腸疾患小兒の消化不良等に對し整腸藥として賞用せられつゝあり。

傳染病研究所に於て目黑氏の實驗報告に據ればコレラ菌は二分間、チフス菌赤痢菌は十分間に乳酸菌培養基にて死滅することを證せられたり。

▲粉末錠劑の二種あり、各地藥舖に販賣す、實驗報告あり贈呈す。

脚氣に賞用せらるゝ

オリザニン

本邦蛋白化學の泰斗鈴木博士創製の本品は貴重なる新營養劑にして、白米食に因する營養不給殊に脚氣樣症狀に賞用せらる鈴木博士其他の實驗報告を綜合するに食品中本劑の成分を缺除せんか漸次營養不良となり遂に倒死する事實を動物試驗に依り實證せられたり。

故にオリザニンは營養劑として脚氣、小兒の營養不給、食慾不振、産前産後及病中病後等の營養劑として好適する事を確證せらる。

▲液劑百瓦入、越幾斯劑四十五瓦入の二種あり

▲實驗報告書御申越次第贈呈す

東京室町

三共株式會社